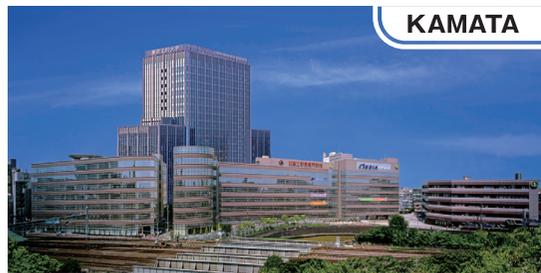


大学でも専門学校でも 片柳学園なら多彩な進路が選べる!

学校法人片柳学園



KAMATA



HACHIOJI

学校法人 片柳学園

日本工学院専門学校 校友会誌

発行・平成26年8月31日

No.50

かまた

実学主義ではぐくむ就職力 東京工科大学

蒲田キャンパス

八王子キャンパス



○デザイン学部



○医療保健学部

看護学科/理学療法学科/作業療法学科
臨床工学科/臨床検査学科



○工学部(2015年4月新設) 機械工学科/電気電子工学科/応用化学科



○メディア学部



○応用生物学部

東京工科大学

〈蒲田キャンパス〉〒144-8535 東京都大田区西蒲田 5-23-22 ☎ 0120-444-925

〈八王子キャンパス〉〒192-0982 東京都八王子市片倉町1404-1 ☎ 0120-444-903

●スマホ・PC <http://www.teu.ac.jp/> ●mobile <http://kam.teu.ac.jp/>



東京工科大学で学ぶ
(学士)取得

日本工学院から東京工科大学へ編入
(専門士)+(学士)取得

日本工学院で学ぶ
(専門士)(高度専門士)取得

専門力+人間力で就職力アップ 日本工学院



クリエイターズカレッジ

放送・映画科
声優・演劇科
演劇スタッフ科●☆
マンガ・アニメーション科四年制◆※
マンガ・アニメーション科
ゲームクリエイター科四年制◆※
ゲームクリエイター科
CG映像科(3年制)

デザインカレッジ

グラフィックデザイン科(3年制)
Webクリエイター科(3年制)☆
インテリアデザイン科(3年制)
プロダクトデザイン科(3年制)

ミュージックカレッジ

ミュージックアーティスト科
プレイヤー/ヴォーカリスト/
ミュージッククリエイターコース
コンサート・イベント科
レコーディングクリエイター科
ダンスパフォーマンス科●

ITカレッジ

ITスペシャリスト科(4年制)◆※※
情報処理科*
パソコン・ネットワーク科*
情報ビジネス科*
診療情報管理士科(3年制)
医療秘書・事務科

テクノロジーカレッジ

ロボット科●*
電子・電気科*
一級自動車整備科(4年制)●◆※*
自動車整備科●*
環境・バイオ科●*
応用生物学科●*
建築学科(4年制)◆※*
建築設計科*
土木・造園科●
機械設計科

医療カレッジ

鍼灸科(3年制)●*
柔道整復科(3年制)●*
臨床工学専攻科一年制●

スポーツカレッジ

スポーツトレーナー科三年制●
スポーツトレーナー科●
スポーツ健康学科三年制●
スポーツコーチング+スポーツインストラクター/
スポーツビジネスコース
スポーツ健康学科●
スポーツコーチング/スポーツインストラクター/
スポーツビジネス/サッカー(男・女)/テニスコース

☆2015年4月新設 ◆編入制度あり ※高度専門士付与学科 *職業実践専門課程認定学科
●日本工学院専門学校のみ設置 ●日本工学院八王子専門学校のみ設置

日本工学院

日本工学院専門学校 〒144-8655 東京都大田区西蒲田 5-23-22 ☎ 0120-123-351

日本工学院八王子専門学校 〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1 ☎ 0120-444-700

●PC <http://www.neec.ac.jp/>

日本工学院

姉妹校：日本工学院北海道専門学校



表紙のことば



創立者・学園長・理事長
校友会名誉顧問

片柳 鴻

「100歳を祝す」

校友会誌「かまた」の記念すべく50号の発行、誠におめでとございます。この度も表紙を私の絵で飾らせて頂き、光栄に存じます。今回の題名は「100歳を祝す」。簡単ではありますが説明を記します。

私は長い間住んでおりました田園調布を離れ、家内に誘われサクラピア成城ケア付きマンションに引っ越して、20数年になります。当時はマンションの住民の中では若い年齢でしたが、現在では最高に近い世代になりました。

当老人ホームでは住居者の慰安のために設けたステージ付き300名収容のホールがあります。西暦2000年ミレニアムのお祝いとして、老人のファッションショーが開催されました。その時、参加された元東京銀行頭取金井夫人の100歳のお祝いも行いました。記念写真を元に30号のキャンパスに描いた作品が校友会表紙に選んだ作品です。

実は平成28年に行う創立70周年記念事業のホールの緞帳の下絵として、現在描いております120号の絵を、校友会表紙に予定しておりましたが、未完成の為に断念しました次第です。

Contents

表紙のことば 名誉顧問 片柳 鴻	表2
校友会会長 桂田 忠明	1
日本工学院専門学校 学校長 千葉 茂	2
校友会だより	
第25回通常総会報告	3
「校友会ラウンジ」利用規定	6
平成25年度支部会員の集い	
北海道支部／青森県支部	7
宮城県支部／秋田県支部	8
山形県支部／茨城県支部	9
首都圏支部／新潟県支部	10
富山県支部／石川県支部	11
長野県支部／岐阜県支部	12
静岡県支部／三重県支部	13
京・滋支部／近畿支部／岡山県支部	14
広島県支部／山口県支部	15
大分県支部／鹿児島県支部	16
沖縄県支部	17
平成26年度支部事業 支部会員の集い開催予定	18
「かまた」第50号発刊記念・各支部長からの祝辞	19
平成25年度 会員の集い「講演会報告」	26

日本工学院ニュース	
平成25年度卒業証書授与式	38
平成26年度入学式	38
第48回かまた祭	39
第45回体育祭	39
第49回 かまた祭のお知らせ	40
校友会 平成26年度「会員の集い」のお知らせ	41
同窓会のお知らせ	42
キャリアサポートセンターからの報告	43
平成26年 教職員の退職者報告	44
写真でみる 校舎の変遷	45
蒲田校 学科の変遷	46
校友・交遊 集まっています!	50
入学金免除制度	52
かまた題字作家紹介	53
個人情報保護についての取組み	53
～先生から一言～ 学科から卒業生へ	54
会員近況メッセージ お元気ですか?	56
日本工学院専門学校教員募集のお知らせ	63
学校法人片柳学園創立70周年記念奨学金について	64
学校法人片柳学園 各学校のご案内	表4

Message



「かまた誌」第50号発刊によせて

校友会会長

桂田 忠明

放送技術部・36年卒業

セントラル電子制御株式会社・代表取締役

「かまた誌」は、この度「第50号」の節目を迎えることができました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。また、これまで発刊にご尽力いただきました代々の編集担当者の方々をはじめ関係の方々に深く敬意を表し、また感謝を申し上げます。

同誌は、昭和42年4月「日本電子工学院 研友会誌『かまた』」として、本校・卒業生・在校生相互の親睦と研究・経験等の交流、技術向上を目指し創刊したものでした。昭和45年4月、「研友会」から卒業生のみでの会としての「校友会」となり、「かまた」誌は会運営等交流のために会報的な形態に改められ、本校と卒業生を結ぶ架け橋として今日に至っております。現在では、年1回発刊の「かまた」誌では果たせない、情報の迅速化を図るため、校友会Webサイトの「校友会NeT」を開設し週1回の更新を目指しています。両者を併せて大いにご活用下さい。

さて、平成22年に蒲田校が大きく変わり、本校の発展を見ることができました。また現在、更なる新計画が進行中です。その計画が完了した暁には、これまで以上に社会に開かれた学校となり、在校生にとっても、時として実社会を目の当たりにできる良い機会が得られることとなりそうです。本校の動きにご注目ください。校友会でも、本校の動きにあわせ、出来る限り協力・支援を行なう所存です。皆様方のご協力・ご支援を節にお願い申し上げます。

校友会では、各支部役員の方々のご尽力で、活発な活動を展開しております。ただ気になっておりますのは、活動報告を拝見していて女性の参加が極めて少ないことです。校友会活動の一層の活性化には、女性の参画も必要なのではと思います。女性が参加しやすい支部活動の運営のあり方を再考してみることも必要ではと考えます。支部活動の活性化から、校友会活動の盛り上がり、更には、本校への協力・支援への高まりは、本校の力強いバックアップとなっていくことでしょう。会員14万人の皆様のご参画と本校への一層のご支援をお願い申し上げます。



校友会誌 「かまたNo.50」にむけて

学校長
千葉 茂

校友会会員の皆様、こんにちは。

日本工学院専門学校は新校舎に移り、早いもので4年が経ちました。

この度、更なる教育環境の充実を図るべく、キャンパス再整備計画として、3号館裏の庭園において、地下4階、地上4階のⅡ期工事に入ることとなりました。地下部は体育館(多目的ホール)として、地上部は部活動等のクラブハウスや実習室として使用の予定です。

現在は準備工事をしており、本工事は8月から開始し、平成28年6月末の完成を目指しております。半年の仮使用期間を経て、平成29年1月より本使用開始となりますので、平成28年度の卒業式から式典関係はこのホールで執り行うこととなります。会員の皆様には工事期間中、しばしご迷惑・ご不便をお掛け致しますが、完成を楽しみにお待ちしております。

さて、校友会のご協力を頂き、実施しております被災地に対する支援のご報告をこの場をお借りしてお伝えします。復興支援最終年度は福島県への支援を行い、皆様の有り難いお申し出を頂き、日本工学院校友会のお名前で調査用の漁船を1隻贈呈致しました。さらに、八王子校、東京工科大学の校友会、関係業者や設置校の教職員の協力を得まして、今春には相馬市内の中学校2校に楽器の贈呈、小学校1校には新設された体育館で使用の体育用具を贈呈し、並びに人気アーティストのかおかおパンダさんと子供たちの合作のライブペイントのイベントを先生方、ご父兄、地元の皆様多くの方々の見守る中、開催しました。完成した作品(絵画)は小学校の多目的ホールに飾られ、現地の新聞にも大きく取り上げられ、皆様に大変喜んで頂き本当に良かったと自負しております。

震災後、月日の経過とともに、被災地への思いも風化されつつある昨今、まだまだ現地ではご苦労が絶えない日々を送られております。今後も片柳学園は被災地の皆様と共に更なる復興を目指して参りたいと思っております。

最後になりますが、皆様の益々のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げます。

校友会
だより

第25回

通常総会 報告

第25回校友会通常総会は今年も本校の講師で会員でもある相沢早苗さんの総司会で始まりました。

今年は議長に、野里和弘副会長、副議長に白石脩副会長を選出し、まずは、校友会・会計幹事、首都圏支部副支部長を務めておられた郷治正雄氏のご逝去を悼み(4月29日ご逝去)1分間の黙祷を全員で行いました。その後6つの議案が審議され、承認されました。

次回、第26回通常総会の開催を平成27年6月13日(土)に決まりました。

総会終了後は3号館12階の学生ラウンジで懇親会が行われました。

学科長だけではなく多くの教職員も参加し、また学生のハンドベルの演奏が行われ和やかな雰囲気に包まれていました。



日時 平成26年6月14日(土) 15:00~16:30
 於 日本工学院専門学校
 31005教室(3号館10階)
 出席 42支部(支部長・副支部長)
 挨拶 桂田 忠明 会長

総会次第

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 理事長挨拶
4. 学校長挨拶
5. 議長、副議長および議事録署名人(2名)の選出
6. 議事審議
 - 第1号議案 平成25年度事業報告
 - 第2号議案 平成25年度収支決算報告および監査報告
 - 第3号議案 平成26年度事業計画(案)
 - 第4号議案 平成26年度収支予算(案)
 - 第5号議案 役員改選について
 - 第6号議案 その他
7. 議長、副議長の解任
8. 閉 会



●平成25年度収支決算報告
(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

収入の部		支出の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
前期繰越	81,293,283	会誌「かまた」等制作費	11,494,159
校友会会費	33,024,000	総会諸費用	1,652,026
会誌「かまた」広告	650,000	地区支部長会議諸経費	2,629,298
受取利息	468	支部事業費	5,706,767
		ウェブサイト経費	1,886,840
		事務管理費	811,547
		人件費	1,574,560
		予備費	1,222,560
		支出の部計	26,977,757
収入の部計	114,967,751	次年度繰越	87,989,994

●平成26年度予算書

収入の部		支出の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
前期繰越	87,989,994	会誌「かまた」等制作費	13,800,000
校友会会費	28,000,000	総会諸費用	2,000,000
会誌「かまた」広告	600,000	地区支部長会議諸経費	2,700,000
受取利息	500	支部事業費	7,100,000
		準会員支援費	500,000
		ウェブサイト経費	2,500,000
		事務管理費	1,520,000
		人件費	4,900,000
		予備費	500,000
		支出の部計	35,520,000
収入の部計	116,590,494	次年度繰越	81,070,494

校友会通常総会の詳細

司会・進行：相沢 早苗

- 開会 開会宣言：植木 敏郎 副会長（新潟県支部長）
- 会長挨拶：桂田 忠明 会長
- 理事長挨拶：片柳 鴻 名誉顧問
- 学校長挨拶：千葉 茂 学校長
- 議長、副議長および議事録署名人の選出
【議長】野里 和弘 副会長（青森県支部長）
【副議長】白石 脩 副会長（岡山県支部長）
【議事録署名人】菅原 進（京・滋支部長）
山口 剛（群馬県支部長）
【書記】事務局
- 議案審議
【第1号議案】平成25年度事業報告
①会報誌「かまた」、「校友会のしおり」の発行について
・会報誌「かまた」No.49号（平成25年8月末日発行）、
・平成25年度卒業生「校友会のしおり」の発行について（平成26年3月17日発行）
②通常総会・支部会員の集いの開催について
・第24回通常総会 於：日本工学院専門学校
期日：平成25年6月8日（土）
・支部会員の集い／全国22支部で開催した。
・地区支部長会議の開催
北海道・東北地区 3／1（土）於：宮城県大崎市
関東・甲信越地区 3／29（土）於：新潟県佐渡市
東海・北陸地区 3／8（土）於：富山県魚津市
近畿・中国・四国地区 2／15（土）於：愛媛県松山市
九州・沖縄地区 2／8（土）於：鹿児島県鹿児島市
③Webサイトの運営と企画
昨年よりWeb委員会は休会としたが、校友会事務局では従来通りホームページの充実を図るように努めるとともに、様々な事業の展開を行った。
④その他
・東日本大震災復興支援事業について
・在校生県人会への支援
25年度は長野県、福島県の支援を致しました。
・卒業展での顕彰
2月・3月に行われた各カレッジの卒業展に際し、優秀学生への顕彰として「会長賞」としてトロフィーを贈呈した。
【第2号議案】平成25年度収支決算報告および監査報告

- ①収支決算報告書
- ②監査報告
【第3号議案】平成26年度事業計画（案）
①校友会誌および校友会のしおりの発行
・「かまた」No.50号の発行（平成26年8月末日発行予定）
・平成26年度卒業生「校友会のしおり」の発行（平成27年3月発行予定）
②通常総会・会員の集いの開催
・第25回通常総会 於：日本工学院専門学校
期日：平成26年6月14日（土）
・支部会員の集い 18支部で開催予定。
・地区支部長会議の開催
③Webサイトの運営について
【第4号議案】平成26年度収支予算（案）
【第5号議案】役員選任について
会計幹事・郷治正雄氏の逝去並びに会計幹事・猪口眞美氏の辞任に伴い、「校友会役員選出に関する細則」第6条（会計幹事は、会長が推薦する者を代議員会で選任する。）に基づき、次の2名を選任した。
会計幹事 藤本 昌之（新任）首都圏支部副支部長、校友会常任幹事
会計幹事 大西 智之（新任）教育・学生支援部係長
任期は、平成27年6月13日まで。
【第6号議案】その他
①校友会活動について
・「かまた」誌 50号記念号
・支部活動の活性化、会員の参加促進、新卒業生に対する校友会の周知
・予算の見直し
「かまた」誌広告料の増加促進（学園求人企業などに対する積極的アピール）
・校友会としてのフェイスブック開設について検討
・学院の広報活動支援（学生募集支援）
②次回通常総会の日程について
第26回通常総会の開催を平成27年6月13日（土）に予定する。
7. 議長、副議長の解任
8. 閉会
閉会宣言：清田 茂信 副会長（熊本県支部長）

校友会通常総会等の様子

平成26年6月14日（土）に日本工学院専門学校において、全国42支部から校友会会員約14万人を代表する支部長が母校に来校され、第24回通常総会が開催されました。

記念写真撮影
14:50～15:00

3号館1階のエントランスホールで片柳理事長と千葉学校長を囲み記念写真を撮りました。



通常総会 15:00～16:30

今年の通常総会は、議長に野里副会長、副議長に白石副会長が選出され、6つの議案について審議が行われました。



懇親会 17:30～19:00

12階の学生ラウンジにおいて、千葉校長はじめ教職員の方々を交え懇親会が行われました。



「校友会ラウンジ」利用規定

1 利用資格

- ① 日本工学院専門学校校友会会員および準会員。
ただし、準会員のみでの使用は出来ません。準会員が利用を希望する場合は、教職員が責任者となり、一切の管理責任を負っていただきます。
- ② 校友会会員が代表者または責任者である団体・グループ。
- ③ 学校法人片柳学園の教職員。
- ④ 日本工学院専門学校校友会会長が認めた者および団体・グループ。

2 利用目的

会議、待ち合わせ、親睦会など様々な目的で使用できますが、目的によっては、校友会事務局の判断でお断りする場合があります。
ただし、利益を得ることを目的とした事業ならびに政治活動・宗教活動を伴う集会には利用できません。

3 校友会ラウンジ概要

- 面積：約 116㎡ ○定員：40名
- 利用可能な設備：OHP、プロジェクター(パソコン・DVD接続可)、スクリーン、ホワイトボード、DVD、冷蔵庫、電気ポット、急須、湯飲茶碗、コップ。
- 設備の利用については、無料です。

4 利用時間

平日 10:00～17:00
学校が休みの時には、利用できません。
利用する場合は2週間前までに校友会事務局に届け、校友会事務局の承認を得なければなりません。また、校友会行事のある場合はこれを優先といたします。
上記時間以外の利用に関しては、校友会事務局にご相談ください。

5 申し込み方法

所定の申込用紙に必要事項を記入の上、校友会事務局にE-mail、FAX、郵便等でご提出願います。先着順で申し込みを受け付けます。ただし、校友会行事等を優先とさせていただくため、使用をお断りする場合がありますので、予めご了承ください。

●申込用紙は校友会事務局
☎03-3732-8183
にご請求いただくか
ホームページをご覧ください。
<http://www.kouyukai.net/>

校友会ラウンジ利用申込書	
【申込日】	平成 年 月 日 ()
【受付日】	平成 年 月 日 ()
【使用申込書】	
氏名*	
所属学校	
所属学年	
性別	
電話番号(携帯番号)	
メールアドレス	
【使用者(責任者)】	
氏名*	
所属学校	
所属学年	
性別	
電話番号(携帯番号)	
メールアドレス	
【使用目的】	会議 親睦会 その他()
【使用日】	平成 年 月 日 ()
【利用人数】	人
【使用時間】	時 分 ～ 時 分
【入室時間】	時 分
【退室時間】	時 分
【申込者印】	<input type="checkbox"/> 承認済 <input type="checkbox"/> 承認済 <input type="checkbox"/> 承認済 <input type="checkbox"/> 承認済

「校友会について」より校友会ラウンジ利用規定及び使用申込(PDF)をダウンロードしてください。

校友会だより 平成25年度 支部会員の集い

平成25年度支部会員の集い(総会・懇親会)は、全国で約300人が集い、さまざまな趣向で開催されました。自己紹介、近況報告、役員改選、懇親会での情報交換など、各支部とも有意義で実りある会合内容が報告されています。旧友との久々の再会となる懇親会では懐かしい思い出話にも花が咲き、和やかに充実した歓談のひとつときもたれました。今後も世代をこえた地元校友とのネットワークづくりに、皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

北海道支部

■設立：昭和63年6月24日 ■登録会員：1,035名
■支部長：平井康美 E-mail hokkaido@kouyukai.net又はkoyukai@nec.ac.jp

第13回 北海道支部会員の集い

開催日：平成25年9月29日(日) 出席者：10名
会場：札幌市「サッポロビール園 ガーデングリル」

- サッポロビール園内 ビール博物館見学 11:00～11:50
- 支部総会 12:00～12:30 司会・進行 平井支部長
◇出席者への謝辞 ◇学校の現状説明
◇校友会の活動報告
- 1. 第12回以降の支部活動報告
- 2. 北海道支部活動の提案と検討
- 3. 会則改正 今回はなし
- 4. 役員改選



- 懇親会 12:30～17:00

青森県支部

■設立：昭和63年9月14日 ■登録会員：724名
■支部長：野里和弘 E-mail aomori@kouyukai.net又はkoyukai@nec.ac.jp

第13回 青森県支部会員の集い

開催日：平成25年9月28日(土) 出席者：8名
会場：青森市「ラ・プラス 青い森」

- 支部総会 17:00～18:00 司会・進行：小笠原副支部長
◇開会挨拶 野里支部長 ◇出席者への謝辞
◇旧職員の顔写真の提示
▶事務局報告 猪口
◇学校の現状説明
◇校友会の活動報告
- 1. 活動報告
- 2. 会則改正 今回はなし
- 3. 役員改選
- 4. 今後の課題について



- 懇親会 18:00～20:30

宮城県支部

■設立：昭和63年5月20日 ■登録会員：546名
■支部長：清水幸男 E-mail miyagi@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第13回 宮城県支部会員の集い

開催日：平成25年11月16日(土) 出席者：13名
会場：JALシティ仙台 日本料理 和旬楽(ワシュンラク)

●支部総会 18:30~19:00

- ▶開会挨拶 清水支部長
- ◇出席者への謝辞
- ▶事務局報告 石原
- ◇学校の現状説明
- ◇校友会の活動報告



議事 進行：清水支部長

1. 活動報告
2. 会則改正 副支部長の人数を3名から5名に改正した。
3. 役員改選
清水支部長より新たに増田さん、前田さんを副支部長に、鈴木さん、菊本さんを幹事に推薦したいと提案があり、承認された。

●懇親会 19:00~21:00



山形県支部

■設立：昭和63年7月25日 ■登録会員：631名
■支部長：樋口祐七 E-mail yamagata@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第13回 山形県支部会員の集い

開催日：平成25年10月20日(日) 出席者：10名
会場：山形市「ホテル キャッスル」

●支部総会 18:00~18:40 司会：樋口副支部長

- ▶開会挨拶 鈴木支部長 ◇出席者への謝辞
- ◇初参加者への御礼(今回2名が初参加)

議事 議長 鈴木(幸)支部長

1. 活動報告
これまでの支部会員の集い開催報告
ならびに全国通常総会の参加報告
2. 会則改正 今回はなし
3. 役員改選
議論の結果、副支部長から選出することにし、その結果、副支部長の樋口さんが推挙され、全員一致で可決した。鈴木(幸)さんは副支部長として残ることになった。
4. 今後の課題について
山形市だけではなく、庄内地方でも開催したいと考えている。しかし、庄内の方と上手く接触できず、結果的に山形市での開催となっている。どなたか妙案があればご提示願いたい。

●懇親会 18:45~20:30



秋田県支部

■設立：昭和63年9月12日 ■登録会員：784名
■支部長：高橋由紀夫 E-mail akita@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第13回 秋田県支部会員の集い

開催日：平成25年10月6日(日) 出席者：8名
会場：秋田市「協働大町ビル」

●「ホームページの作り方」 16:00~17:30

秋田県支部顧問の高橋さんにホームページの作り方について講演していただいた。

●支部総会 17:30~18:00

- ▶開会挨拶 高橋支部長
- ◇出席者への謝辞
- ▶事務局報告 石原
- ◇学校の現状説明
- ◇校友会の活動報告
- ▶参加者の簡単な自己紹介と近況報告



議事 司会：山内副支部長 議長：豊原

1. 活動報告
2. 会則改正 副支部長を2名から3名に改正
3. 役員改選
高橋支部長より全員留任の案が出され、承認された。

●懇親会 18:00~20:00



茨城県支部

■設立：平成1年11月22日 ■登録会員：2,901名
■支部長：廣瀬憲治 E-mail ibaragi@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第13回 茨城県支部会員の集い

開催日：平成25年11月23日(土) 出席者：20名
会場：水戸市「水戸レイクサイドホテル」

●支部総会 15:00~16:30

- ▶開会挨拶 廣瀬支部長
- ◇出席者への謝辞
- ▶事務局報告 猪口
- ◇学校の現状説明
- ◇校友会の活動報告
- ▶参加者の簡単な自己紹介と近況報告



議事 進行：廣瀬支部長

1. 活動報告
前回の支部総会(水戸H23.11.19)、地区支部長会議(長野県上田市H25.2.9-10)、全国通常総会(蒲田H25.6.8)
2. 会則改正 今回はなし
3. 役員改選
支部長、副支部長は全員留任、今回2名の方に再選を、4名の方に新任をお願いしたいと支部長が提案し承認された。
4. 今後の課題について



首都圏支部

■設立：昭和63年6月3日 ■登録会員：48,148名
■支部長：桂田忠明 E-mail koyukai@neec.ac.jp又はkoyukai@neec.ac.jp

第13回 首都圏支部会員の集い

開催日：平成25年11月2日(土) 出席者：約130名
会場：日本工学院専門学校

●支部総会 13:00~13:30

- ▶開会挨拶 桂田首都圏支部長
- ◇出席者への謝辞



議事 進行：校友会事務局

1. 平成23年度および平成24年度事業報告
2. 平成23年度および平成24年度収支報告・監査報告
3. 役員改選に関する件
事前に協議した内容を全員が承認した。支部長、副支部長、会計、会計監査は全員再任。幹事は一部再任し、新しく3名の方々に幹事をお願いした。
4. その他
かまた祭参加事業について
講演会、演奏会、懇親会等の準備・進行状況の確認

●講演会 15:30~17:00

漫画家 やく みつる氏をお招きし、相沢早苗さんと共にトークショーを行っていただきました。
なお、このときの内容は本誌P26に掲載しています。



●音楽部OB演奏会

12:30~13:30
かまた祭にて音楽部OBによるジャズの演奏が行われました。



学校長ブログより

●懇親会 17:30~19:30



新潟県支部

■設立：平成1年10月6日 ■登録会員：2,476名
■支部長：植木敏郎 E-mail niigata@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第13回 新潟県支部会員の集い

開催日：平成25年11月9日(土) 出席者：14名
会場：村上市「瀬波ビューホテル」

●支部総会 12:30~13:15 進行：長谷川幹事

- ▶参加者の紹介
- ▶開会挨拶 植木新潟支部長
- ◇出席者への謝辞
- ◇村上市で開催に尽力していただいた方々への謝辞
- ▶事務局報告 教育・学生支援部参与 猪口
- ◇学校の現状と今後の展望

議事 議長：植木支部長

1. 活動報告
2. 校友会事務局からの報告
3. 会則改正 植木支部長から以下のような提案があった。
 - (1) 副支部長の人数変更 現行 1名 → 3名
 - (2) 幹事の人数変更 現行 4名 → 若干名
4. 役員改正

●懇親会 13:30~16:30



富山県支部

■設立：平成5年5月22日 ■登録会員：520名
■支部長：石黒明 E-mail toyama@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第11回 富山県支部会員の集い

開催日：平成25年10月12日(土) 出席者：11名
会場：富山市「くろべ」

●支部総会 17:00~17:40

- ▶開会挨拶 石黒支部長
- ◇出席者への謝辞
- ▶事務局報告 猪口
- ◇学校の現状 ◇校友会の活動状況
- ▶出席者の簡単な自己紹介



議事 進行：石黒支部長

1. 活動報告
2. 会則改正
3. 役員改選
会計を高林様から新しく大間知様に依頼した。その他の役員は石黒支部長より留任の案が出され、承認された。大間知様は副支部長と会計を兼務することになる。

●講演会 17:40~18:20

- 「ローカル放送局裏話」 林 寛氏 高知県支部長
1. 何故民報は視聴率にこだわるのか
 2. 地元密着こそがローカル局の使命



●懇親会 18:30~20:30



石川県支部

■設立：平成5年5月21日 ■登録会員：343名
■支部長：山岸誠次 E-mail ishikawa@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第11回 石川県支部会員の集い

開催日：平成25年10月13日(日) 出席者：9名
会場：金沢市「金沢味食亭 よし久」

●支部総会 17:10~18:00

- ▶開会挨拶 山岸支部長
- ◇出席者への謝辞
- ◇新メンバーの紹介



議事 進行：山岸支部長

1. 活動報告 支部会則の説明も同時に行った
2. 会則改正 今回はなし
3. 役員改選 支部長より全員留任の案が出され、承認された。
4. 参加者自己紹介

●講演会 18:00~18:40

- 「ローカル放送局裏話」 林 寛氏 高知県支部長
1. 何故民報は視聴率にこだわるのか
 2. 地元密着こそがローカル局の使命



長野県支部

■設立：昭和63年11月19日 ■登録会員：3,166名
■支部長：峯村理雄 E-mail nagano@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第13回 長野県支部会員の集い

開催日：平成25年9月21日(土) 出席者：12名
会場：小諸市「中棚荘」

●中棚荘女将さんのご挨拶

中棚荘の由来、島崎藤村との関係老舗の旅館の苦労話、不便さの中の便利さ、女将と大型オートバイ、初恋リング風呂などなど楽しい話をしていただいた。



●杉田先生のハモニカ演奏

杉田先生がハモニカの演奏を行った。演奏曲目：北の国から、上を向いて歩こう、いそしぎ、校歌(旧校歌、新校歌)



●昼食会と懇親会

ハモニカ演奏の後、景色の良い場所に会場を移して昼食会を兼ねた懇親会を行った。

- 支部総会 13:30~14:30 進行：峯村支部長
▶開会挨拶 峯村支部長 ◇出席者への謝辞 ◇参加者の自己紹介
▶事務局報告 猪口 ◇学校の現状 ◇校友会の活動状況



議事

1. 支部活動報告 峯村支部長
2. 会則改正 今年度は改正無し
3. 役員改選
4. その他



●講演会 14:30~15:30

テーマ「人はいつまで地球に住めるのか」

先生からは、約一時間にわたり、人口問題、食糧問題、資源・エネルギーの問題、廃棄物問題などについて熱のごもったお話をいただきました。(校友会長長野県支部長 峯村理雄)

静岡県支部

■設立：昭和63年9月29日 ■登録会員：3,381名
■支部長：奥川宏 E-mail shizuoka@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第13回 静岡県支部会員の集い

開催日：平成25年10月14日(月) 出席者：16名
会場：静岡市「ホテルアソシア 静岡」

●支部総会 司会・進行 奥川支部長

- ▶開会挨拶 奥川支部長
◇出席者への謝辞
◇理事長の現在のご様子、学校の近況報告
◇通常総会参加時の報告
▶事務局報告 猪口
◇学校の現状
◇校友会の活動状況



議事 進行：奥川支部長

1. 活動報告
2. 会則改正 今回はなし
3. 役員改選

●講演会 相沢早苗さん

簡単な自己紹介、相沢さんが出版された本「元気のあいうえお」の紹介。参加者ひとりひとりを取り上げて、名前をもとにした体の運動の紹介を行った。



●懇親会 16:30~18:00



岐阜県支部

■設立：平成5年5月19日 ■登録会員：175名
■支部長：番場日出喜 E-mail gifu@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第10回 岐阜県支部会員の集い

開催日：平成25年11月10日(日) 出席者：6名
会場：高山市 総会「柴田春次商店二之町店」
懇親会「侘助」

●支部総会 15:30~17:30

- ▶開会挨拶 番場支部長
◇出席者への謝辞
◇新メンバーの紹介
▶事務局報告 石原
◇学校の現状
◇校友会の活動状況



議事 進行：番場支部長

1. 支部活動報告
2. 支部活動参加者を増やすための提案と検討
(1)近隣の支部との合同開催を考えてみたい。
(2)近くに住んでいると思われる卒業生と連絡が取れない
3. 会則改正 今回はなし
4. 役員改選
番場支部長より全員留任の案が出され、承認された。



●懇親会 18:00~20:00

会場を「侘助」に移し、清水副支部長の乾杯のご発声で懇親会が始まった。楽しいひとときを過ごした。最後に全員で集合写真を撮って閉会した。



三重県支部

■設立：平成5年5月19日 ■登録会員：156名
■支部長：平井 正博 E-mail gifu@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第10回 三重県支部会員の集い

開催日：平成25年10月5日(土) 出席者：4名
会場：四日市市「たまゆら プラトンホテル」

●支部総会 18:00~18:30

- ▶開会挨拶 平井支部長
◇出席者への謝辞
▶事務局報告 猪口
◇学校の現状説明
◇校友会の活動報告



議事 進行：平井支部長

1. 活動報告
2. 会則改正 今回はなし
3. 役員改選 全員留任の案が出され、承認された。

●懇親会 18:30~20:30

懇親会では、自己紹介とともに近況報告並びに在学当時の話題を話し合った。平井支部長から事前に皆さんに学校紹介DVDを渡してあったので、これをご覧になられた参加者は学校の大きな変貌に驚いておられた。懐かしい思い出で時間があっという間に過ぎていった。再会を期してお開きとした。



京・滋支部

■設立：平成5年5月29日 ■登録会員：181名
■支部長：菅原進 E-mail kyo_shi@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

近畿支部

■設立：平成2年6月4日 ■登録会員：373名
■支部長：中澤広 E-mail kinki@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第11回 京・滋、近畿支部会員の集い

開催日：平成25年7月27日(土) 出席者：22名
会場：大阪市「バンドリア」(合同開催)

●支部総会 18:30~18:50

▶開会挨拶 中澤支部長 ◇出席者への謝辞

議事 進行：中澤近畿支部長

1. 活動報告

◇配布資料を基にして2年間の支部活動が報告された。
◇近畿支部のブログについて

2. 役員改選

中澤支部長より全役員の留任が発表され、承認された。

●講演会「東日本大震災について」 18:50~19:30

岩手県支部長阿部さんにご出席いただき、2011.3.11の地震・津波発生時のニュース映像等を見ながら、津波の恐ろしさ、被害状況の実情、罹災後の状況等をお話いただいた。



●懇親会 19:30~22:00

参加者は22名
近畿支部と
京・滋支部の
合同開催



岡山県支部

■設立：昭和63年9月21日 ■登録会員：296名
■支部長：白石脩 E-mail okayama@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第13回 岡山県支部会員の集い

開催日：平成25年10月26日(土) 出席者：8名
会場：岡山市「すし茶屋 銀八」

●支部総会 17:00~18:00 司会・進行 高橋副支部長

▶開会挨拶 白石支部長 ◇出席者への謝辞

▶出席者自己紹介 初参加の方が2名いた。

▶事務局報告 猪口 ◇学校の現状説明 ◇校友会の活動報告

議事 議事進行：高橋副支部長

1. 活動報告

2. 会則改正 今回はなし

3. 役員改選

4. 今後の課題について

岡山以外の地区でも開催が出来ればと考えている。そのため、副支部長は岡山地区、津山地区、倉敷地区から選出している。皆さんからも良いアイデアがあったら出して欲しい。

●懇親会 18:00~20:30

「パソコンソフトにかかわる問題点」「健康の話」など、多岐にわたる話題で盛り上がり、あっという間に時間が過ぎ、次回の再開を期してお開きとした。



広島県支部

■設立：昭和63年9月22日 ■登録会員：406名
■支部長：福岡孝司 E-mail hirosshima@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第12回 広島県支部会員の集い

開催日：平成25年10月26日(土) 出席者：12名
会場：広島市「ガウチョグリル」

●支部総会 17:00~18:00

▶開会挨拶 福岡支部長 ◇出席者への謝辞

▶事務局報告 石原

◇学校の現状報告

◇校友会の活動報告

議事 進行：福岡支部長

1. 活動報告

2. 会則改正 今回はなし

3. 役員改選

福岡支部長より全員留任の案が出され、承認された。

●懇親会 18:00~21:00

福岡支部長挨拶の後、堂前副支部長の乾杯のご発声で会が始まり、自己紹介での学当時の学校生活の話では、出席者のほとんどの方が学生寮に入っていたことがわかり、寮の話で盛り上がった。時間が過ぎるのも忘れて、楽しいひとときを過ごした。最後に再会を祈念し、全員の一本締めで閉会した。



山口県支部

■設立：平成3年9月14日 ■登録会員：192名
■支部長：浅井雅博 E-mail yamaguchi@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第12回 山口県支部会員の集い

開催日：平成25年11月30日(土) 出席者：6名
会場：山口市「土火土火(ドカドカ)」

●支部総会 18:30~19:00

▶開会挨拶 白石支部長 ◇出席者への謝辞

▶事務局報告 猪口 ◇学校の現状説明 ◇校友会の活動報告

議事 進行：浅井支部長

1. 活動報告

◇元支部長の辞任に伴う支部長変更並びに副会長等変更

◇前回の地区支部長会議(H25.2/2,3)雄琴温泉

◇全国通常総会(H25.6.8)蒲田

2. 会則改正

支部長より右田さんを新副支部長に、岸本さんを幹事に推薦したいと提案があった。検討の結果、承認された。

3. 役員改選

支部長、副支部長の変更は無く、幹事に新しく渡辺さん、杉本さんに就任を依頼して承認が得られた。

4. 今後の課題について

今後は「支部会員の集い」が開催されない年にレクリエーション的な内容を実施したらどうかとの提案があった。



●懇親会 19:00~21:00

浅井支部長の乾杯のご発声で懇親会がスタートした。「恩師との思い出」「今どきの学生と昔の学生の気質の違い」などなど楽しい話題であったという間に時間が経過した。次回の再会を期して一本締めを行いお開きとした。



大分県支部

■設立：平成3年5月10日 ■登録会員：191名
 ■支部長：森崎俊彦 E-mail ooita@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第12回 大分県支部会員の集い

開催日：平成25年8月3日(土) 出席者：10名
 会場：大分市「豊の国健康ランド」

●支部総会 17:30~18:20

- ▶開会挨拶 森崎支部長
- ◇出席者への謝辞

議事 進行：森崎支部長

1. 活動報告
 - ◇地区支部長会議の報告 ◇全国通常総会の報告
2. 会則改正 今回はなし
3. 役員改選
 - 森崎支部長より全員留任の案が出され、承認された。
4. 今後の課題について
 - ◇校友会「会員の集い」への参加者増加案の検討
 - ◇懇親会開催(頻度をあげて会員同士の繋がりを強める)



●懇親会 18:30~20:30

参加者は10名で、懇親会では北九州各地で行われた全国高等学校総合体育大会(インターハイ)、七夕祭り、若い方々の校友会活動への参加の工夫、機会があれば理事長の苦労話をお聞きしたい等の話題等が盛り上がりました。

鹿児島県支部

■設立：63年3月5日 ■登録会員：605名
 ■支部長：久山順一 E-mail kagoshima@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第13回 鹿児島県支部会員の集い

開催日：平成25年11月16日(土) 出席者：10名
 会場：鹿児島市「ジェイドガーデンパレス」

支部総会に先立ち、学校の最近の様子と学生募集が掲載されているDVDの鑑賞をした。

●支部総会 議長：久山支部長

- ▶開会挨拶 久山支部長 ◇出席者への謝辞
- ▶事務局報告 猪口
- ◇学校としての出来事 ◇校友会としての出来事

議事 進行：久山支部長

1. 活動報告
 - 支部長よりこれまでの活動報告があった。
2. 会則改正 今年度無し
3. 役員改選
4. その他
 - ◇九州・沖縄地区支部長会議が2月に鹿児島で行われるのでその打ち合わせを行った。
 - ◇オプションは鹿児島市内で行いたい。



●懇親会

会場を変えて懇親会を実施した。自己紹介ならびに近況報告を行った。「校友会の開催はインターネットで知った」「会社以外の人との付き合いはあまりなかったが、この会に参加して、交際範囲が広がった」など様々な話題が出た。



沖縄県支部

■設立：平成1年5月27日 ■登録会員：1,074名
 ■支部長：徳田永伸 E-mail okinawa@kouyukai.net又はkoyukai@neec.ac.jp

第12回 沖縄県支部会員の集い

開催日：平成25年10月19日(土) 出席者：23名
 会場：那覇市「ホテル ロイヤルオリオン」

●支部総会 19:00~ 司会・進行：當間

- ▶開会挨拶 徳田支部長 ◇出席者への謝辞
- ▶事務局報告 石原 ◇学校の現状報告 ◇校友会の活動報告

議事 進行：森崎支部長

1. 活動報告
2. 会則改正 今回はなし
3. 役員改選
 - 徳田支部長より全員留任の案が出され、承認された。



●懇親会 19:30~21:00 司会・進行：仲村副支部長

徳田支部長挨拶の後、辻野さんの乾杯のご発声で会が始まり、在学当時の学校生活、恩師やクラスメイトの近況、などの話しに盛り上がった。校友会誌がきっかけで、同級生に久しぶりに会った話などがあつた。今回は初参加の方が5名。女性の参加、八王子校卒業生の参加、兵庫県支部小坂副支部の参加があり、話が尽きずにあつという間に時間が過ぎてしまった。最後に喜屋武相談役の挨拶で閉会し、全員で集合写真を撮った。



校友会「支部会員の集い」の詳細は、下記ホームページでもご覧になれます。
<http://www.kouyukai.net/>

支部会員の集い開催予定

支部会員の集いは2年に一度開催されます。総会では役員改選の後、支部活動についてのご意見をお聞かせいただき、その後の懇親会では地元の校友との情報交換やネットワークづくりの活発化を図ってまいります。また、講演会、研修

会、見学会、レクリエーションなどを積極的に企画している支部もあります。

お知り合いの校友、姉妹校（八王子校・北海道校・東京工科大学）の卒業生をお誘いのうえ、多数ご参加いただけますようお願い申し上げます。

支部名	開催月日(曜)	開催地	支部長
岩手県支部	10月18日(土)	盛岡市	阿部 富美雄
福島県支部	9月27日(土)	福島市	荒 俊之
栃木県支部	8月2日(土)	宇都宮市	川岸 稔
群馬県支部	12月6日(土)	前橋市	山口 剛
福井県支部	10月12日(日)	福井市	笈田 義和
山梨県支部	8月3日(日)	甲府市	名取 宏典
愛知県支部	11月16日(日)	名古屋市	石川 隆行
兵庫県支部	7月26日(土)	神戸市	新庄 史奈
鳥取県支部	11月29日(土)	米子市	吉村 哲正
島根県支部	11月29日(土)	米子市	藤原 義広
徳島県支部	10月11日(土)	徳島市	岡本 和之
香川県支部	10月4日(土)	高松市	渡邊 博文
愛媛県支部	10月18日(土)	松山市	佐々木 剛司
高知県支部	10月5日(日)	高知市	林 寛
福岡・佐賀県支部	10月25日(土)	福岡市	穴見 誠
長崎県支部	11月8日(土)	長崎市	釘山 威
熊本県支部	11月15日(土)	熊本市	清田 茂信
宮崎県支部	11月22日(土)	宮崎市	川添 守
韓国支部	調整中		李 芙蓉
台湾支部	調整中		唐 偉倫

卒業生の集まる会

●徳島県支部 ……8月23日(土)～24日(日) 於：美馬市青

●青森県支部 ……9月20日(土) 於：八戸市

*日程は都合により変更することがあります。

かまた 第50号発刊記念 各支部長からの祝辞

毎年、校友会が発刊している「かまた」誌が第50号を迎えることとなりました。

発刊を記念して全国の支部長からいただいた祝辞を紹介いたします。



北海道支部 支部長 平井 康美



校友会誌「かまた」50号の発行おめでとうございます。私も昭和57年3月に公害工学科9期生として卒業し、はや31年余りがたちました。学生当時、実験に使用していた装置は最先端のものがあっても設備が充実している学校だなあと感じていました。

ここ数年、校友会北海道支部長として総会に出席する度、新しい施設の見学をさせて頂き卒業した我が専門学校は今もどんどんと進化成長しているのだなあと感じさせられております。

卒業生の皆様には、記念校友会誌50号をご覧になって、我が母校の歴史を今一度確認し、日本工学院専門学校の卒業生としての誇りを持ち、これからも頑張ってもらいたいと思います。

また、卒業生の方々は各支部で2年に一度開催される「会員の集い」に是非参加され、学生当時のお話や今の近況報告など、話しをして色々な方と交流を深めてもらいたいと思います。

同じ専門学校の卒業生として、人の繋がりを皆さんも増やしてみませんか。

在校生の皆様は、素晴らしい施設のある学校を信頼し、一生懸命勉強して色々な技術を身につけ、

自分が目標とする事に向かって頑張ってもらいたいと思います。

これからも我が母校が益々発展されるよう願っております。

青森県支部 支部長 野里 和弘



学校法人 片柳学園 日本工学院専門学校 校友会誌「かまた」No.50号の発刊、本当におめでとうございます。

21世紀の今日の優勢は72年前の「メコン河の夕景」で誕生し、創美学園から発足した創立者・学園長・理事長・校友会名誉顧問・片柳 学園」片柳鴻先生。万歳!・万歳!・万歳! 感謝合掌

岩手県支部 支部長 阿部 富美雄



●校友会誌「かまた」発刊50号記念にあたり このたび、校友会誌「かまた」の記念すべき50号の発行にあたり、心からお祝い申し上げます。

この50年間、学校の目覚ましい発展や出来事、校友会員の活動状況など、学校と卒業生を結びつけている唯一の情報源として発行されてきた校友会誌「かまた」は、まさにその重要な役割を担ってきました。今後は、この記念号の発行を一つの契機として、校友会誌「かまた」が校友会員のほか在校生にも情報提供し、これまで以上に交流が深まるとともに、校友会活動がますます発展するようご期待申し上げます。

宮城県支部 支部長 清水 幸男



●校友会誌「かまた」発刊50号記念にあたり 「かまた」50号発行のお祝い申し上げます。私は、宮城県支部長の清水幸男と申します。昭和54年「日本工学院専門学校サービス技術科」を卒業しました。卒業後は、仙台に戻り、パソコン関連の仕事につき、お店経営・仙台の専門学校非常勤講師を25年経験した後、SONY関連会社下請けのテレビ修理業を経て会社の事務管理を行っております。宮城県大震災後、修理業・関連サービス業をやっておりますが、県内も二極化が進み。サービス業については、新しい製品もできることで、修理事業全体も低下してきており、踏ん張りどこと思っており、現在に至っております。自宅も現在仮住まいで、計画しており、なかなか進まない状態です、皆様も将来に不安もあると思いますが、自分も元気に邁進しております、これからも、校友会・日本工学院専門学校の繁栄を祈り簡単ですがお話しさせていただきました。

秋田県支部

支部長 高橋 由紀夫



●校友会誌「かまた」50号を迎えて

校友会誌「かまた」50号の発行おめでとうございます。送付される校友会誌を毎回楽しみにしております。特に母校の歩みとして、No.47～No.49号の連載記事を拝読し、母校の歴史について改めて再認識しました。私も平成5年10月の第3回県支部総会から校友会活動に深く関わるようになり、平成23年10月の第12回支部総会で支部長を拝命しました。今後も学校関係及び諸先輩の方々のご指導を頂きながら、校友会メンバーの一員として、微力ながら校友会活動に協力すると共に、今後益々の学校及び校友会の発展を祈念しております。

山形県支部

支部長 樋口 祐七



かまた誌発刊50号おめでとうございます。

自分が入学した昭和40年(1965年)2号館が完成し、地下の学生食堂の思い出、6階のホールで放映したTV番組、ロッテ歌のアルバム、校舎に横付けしてあった局の中継車、電子工学も真空管時代、トランジスター、ICの初期時代、コンピュータの型は大きく、こんな時代で学んだ校舎が懐かしく思い出します、卒業と同時に「かまた誌」の創刊号が発刊、内容も2技合格者名に自分の名前も書いてあって、懐かしい思い出です。

又、発刊を重ねることと学科の新設が、校舎の増築等卒業生には、母校の躍進ぶりが良く分かります。これからも長期に発刊されることと思います。発刊50号おめでとうございます。

栃木県支部

支部長 川岸 稔



●校友会誌によせて

昭和36年、私は旧日本テレビ技術専門学校に入学しました。

初めての東京、蒲田の街には戦後の影はなく、復興に活気だった、東京に立ちました。

日本の各地から、まさに将来の夢をつかもうとする仲間が当時、テレビという夢の技術を追って、地方から蒲田に、教室もあふれんばかりの授業で、アルバイトは課外授業として、夜までほとんどの仲間が頑張っていました。

その仲間が、地元に戻り、今でも全国的に友達として、付き合いをしています。

私は現在、転勤を重ねて栃木に居住、退職を迎え、支部会発足当初から幸運にも支部会に関わり、地元学生のUターン就職先相談会等に参加、県内支部員の支部総会等を永いこと務めさせて戴きました。そして何度か蒲田を訪問することができ、その都度変革していく新たな学園の歴史の成長と発展を見聞してきました。

社会に出ては転勤を重ねましたが、関東圏どこにいても、先輩、後輩の卒業生が在職していて、仕事面でもやりやすい職場環境でもありました。退職した今でも、会えば飲み会な

ど蒲田での話でつながる仲間として続いています。

現在の蒲田校、八王子校、北海道校等にみる学園の姿、形、はそのまま、発展の歴史として理事長の夢の実現が、建築物の隅々に刻まれ、その風格は、私たち校友会の誉れでもあります。

私達は入学時の思い出の中にあります、入学当初からの理事長の笑顔とバイタリティある行動力にすっかり魅せられてきました。

そして、時代にのす成長続ける、母校と「かまた」へは時々足を向けたくなるのです。

福島県支部

支部長 荒 俊之



●校友会誌「かまた」50号を迎えて

かまた誌50号 おめでとう御座います。

15号から読ませていただいております。

今、15号を、見てみますと、懐かしい諸先生方と、今では考えられない事に、前年度卒業生の住所と就職先が載っておりました。

この15号は、在校時、2年生の夏に配布されたもので、先輩がどの様な所へ就職されたか参考にできて大変良かったとおもいます。

今後とも、卒業生と学校の架け橋として、ますますの充実とご発展を期待しつつ、毎号楽しみに待っております。

茨城県支部

支部長 廣瀬 憲治



●校友会誌「かまた」50号を迎えて

校友会誌「かまた50号」の発行を迎え、おめでとうございます。大勢の皆様のご尽力があつたことと思います。私が卒業しまして42年、卒業生も十数万人と聞いております。

校友会の情報、又、学校の近況等情報が詰まった会誌です。出来るだけ長く発行が続けられる事を願っております。

校友会の皆様、人生を謳歌しましょう。

群馬県支部

支部長 山口 剛



群馬県支部の山口です。

校友会誌かまた「50号」発行おめでとうございます。

支部長になり15年近くになりました。

当時最年少支部長で33歳だったと記憶しております。会議に出席しても大先輩ばかり

で緊張しておりました。懇親会ではお酌係だったような(笑)校友会事務局の猪口さんには、いろいろと助けて頂きありがとうございました。

群馬支部は、数年前から支部総会、翌年は懇親会と毎年イベントを始めました。

おかげで事務局の仕事は増えてしまいましたが、群馬県支部の卒業生同士の絆は、他県の支部より強く現在も成長し続

けています。これも校友会事務局の皆さま、学校関係者の皆さまのご理解のお陰だと感謝しております。

今後とも宜しくお願い致します。

新潟県支部

支部長 植木 敏郎



校友会誌「かまた」が50号を迎え歴史の重みを感じます。記念号おめでとうございます。校友会の20周年記念では蒲田に集まり皆様にお世話になりました。

新潟県支部の「集い」も平成17年の9回は柏崎市→上越市→十日町市→三条市→村上市で13回目を開催しました。次回は平成27年に佐渡市を予定しています。皆さん楽しい歴史を積み重ねましょう。



富山県支部

支部長 石黒 明



校友会誌「かまた」50号おめでとうございます。

ネット社会に成った昨今、印刷物での発行は貴重に成って来ましたが

これからも校友会の情報発信誌として頑張ってください。

石川県支部

支部長 山岸 誠次



●校友会誌「かまた」50号を迎えて

校友会誌「かまた」50号発刊 おめでとうございます。

これまで編集・発行に携われた方に感謝申し上げます。

卒業後住所変更等により、手元に届くことが無くなり、いつしか実家に送付され一読するだけでしたが、年齢を重ねて故郷に戻ってからは、愛読(笑)するようになりました。今後も愛読していきますので、くだけた記事、在校生の生の声、学校に関するクイズ等を盛り込んで戴ければと」要望致します。

福井県支部

支部長 笈田 義和



「かまた」50号記念号の発行おめでとうございます。

私の中で最も印象的なものは、「かまた」創刊号の表紙です。2号館玄関ロビー上の見学窓から眺めることが出来た、汎用電子計算機「NEAC」の扉が開かれたユニット写真です。

電子工学の私には、さん孔カードを持ち電算室に入る様は時代の先端を行く花形選手に見えました。その後はマイコンを自作、今はノートパソコンでこの原稿を書いているのですから隔世の感です。

山梨県支部

支部長 名取 宏典



●校友会誌「かまた」50号を迎えて

「志」…これは今年6月に開催された校友会通常総会において、片柳鴻理理事長の挨拶を聞いて感じた言葉です。

教育の場を通じて社会貢献のための人材育成に情熱を持ち続けている理事長には頭

の下がる思いです。そして、このような大事業だけでなく普段の生活においても、志をもって物事に取り組む姿勢は必要ではないでしょうか。また、山梨県支部長として校友会誌に記念の寄稿を掲載して頂けることにお礼申し上げます。

長野県支部

支部長 峯村 理雄



●校友会誌「かまた」50号を迎えて

校友会誌が創刊された年に入学し、それから47年の年月が経ち就職してから今日に至るまで、校友会誌の毎号の記事を楽しみにしています。

卒業後の就職はテレビ放送関係の仕事に就き、現在も支部長として学校の校友会には何かとお世話になっていますが、私が歩んできた人生は、日本工学院で学んだことが仕事に活かされ今日の自分が有ると実感しているこの頃です。

これからも、校友会誌が届くことを楽しみにしています。

岐阜県支部

支部長 番場 日出喜



●「かまた誌」創刊50号に寄せて

「かまた誌」50号の発刊おめでとうございます。今年66才になった私が高校へ入学した年に創刊された事になります。東京で働いていた頃や、岐阜へ帰ってからもしばらくは読んだ記憶はないのですが幸いにして校友会を通して当時お世話になった先生方や諸先輩と再会するようになってより多くの情報が欲しくて読むようになりました。

限られたページの中ですがこれからも在学生の話題、卒業生の話題を楽しみに読ませて頂きます。

静岡県支部

支部長 奥川 宏



タモリが赤塚富士夫との別れで「私も、あなたの作品のひとつです。」といいました。わたしも日本工学院の一作ではなかったかと思っています。技術基礎を身につけ電電公社採用。25歳まで国家試験漬けで、1技資格が武器でした。

60歳超えて一線から離れましたが、支部長は恩返しと考え、続けます。「かまた」同様県内OBに母校の風が吹くよう頑張ります。

愛知県支部

支部長 石川 隆行



50号おめでとう御座います。私が、卒業して早25年経ちます。私たちが学んだ校舎は、殆どありません。今や近代化の走りと言われ程の立派な校舎が立ち、教室内もゆとりのある物に成ってますね。羨ましいほどです。

今後の若人に幸あれと祈っています。

三重県支部

支部長 平井 正博



●校友会誌「かまた」50号を迎えて

日本工学院専門学校「校友会会員」の皆様、三重県支部を代表して、お祝いを申し上げます。

昨今、卒業した母校が、無くなったり統合されている事も有る中、我が母校は、蒲田の地に、益々大きく発展して、校友会員の組織も充実し拡大されている事に、嬉しく思います。

片柳理事長様初め、千葉学校長様、教職員の方々、また会員の皆様に感謝致しております。

記念50号の紙面を、お借りいたしまして、三重県のPRをさせていただきます。

県庁所在地は、日本で一番短い「つ」、津市で、県内には、日本屈指のジェットコースターを持つナガシマスパーランド・F1レースで有名な、鈴鹿サーキット。昨年20年に一度の弊社(おやしろ)の立替が済みました、伊勢神宮(内宮・外宮)・世界遺産10年目の熊野古道等々が有ります。

鳥羽市はミキモト真珠で御存知の方も、多いと思います。

さて、結婚30年の記念を真珠婚式...と言うのは、皆様 御存知でしょうか、鳥羽市の観光協会では、年間10回程度、この結婚30年のお祝いの真珠婚式を開催しております。

私事で、恐縮ですが、数年前に、私も真珠婚式を受け、たまたま、娘の結婚式の1カ月前に

鳥羽の教会で、真珠婚式を行いました。娘と



バージンロードを歩く前に、まさか、この年で妻のウエディングドレス姿が、見れるとは驚きでした。

校友会の会員の皆様で、結婚30周年を迎えられる方、真珠婚式でお祝いしてみませんか？

真珠婚式の詳細・申し込みは、ネットにて真珠婚式、鳥羽市観光協会にてご検索下さいませ。

皆様の、ご来県を御待ち致しております。

末筆になりますが、母校ならびに校友会のご発展と、会員の皆様の御健勝をお祈り致しております。

京・滋支部

支部長 菅原 進



「かまた」50号発刊記念おめでとうございます。校友会の総会で学校に訪問するたびに、新しく立派に発展してゆく姿にただただ驚いています。私が卒業して37年が経ちます。我々の時代は家電が最盛期へ向かって行く途中でした。しかし今は成熟して、情報化社会へと変化して、IT時代と進化を続けています。思うことは時代のスピードが速かったのも、もっと勉強しておけば良かったと思います。勉強の方法も、もっと実践的な方法で、目標を定めて戦術的に計画、行動をするべきであったと思います。学生時代はアツと言う間に過ぎて行きます、有意義に過ごしてください。

近畿支部

副支部長 内田 隆文



●校友会誌「かまた」50号を思って

この度、日本工学院専門学校校友会誌「かまた」の発刊50号を迎えたこと心よりお喜び申し上げます。

卒業より早33年。当時、東京の一人暮らしも初めてのことで寮ではなく蒲田駅から徒歩

15分くらいの4畳半の小さなアパートでした。本当に懐かしい思い出ばかりです。

現在は、関西で起業しポストプロダクションをさせて頂いております。

今後の日本工学院のますますの発展と「かまた」の継続をお祈り致しております。今後「かまた」の発行も「PDFファイルで、配信という形をとって頂ければな」と思っています。

兵庫県支部

支部長 新庄 吏奈



かまた創刊50号おめでとうございます。毎年、楽しみにしております。

「かまた」を通して変わりゆく学校の姿を見る事も楽しみの1つとなっておりますので、

これからも、沢山の情報を各地へ送り届けて頂き、学校・校友会が益々発展していく事を願っております。

鳥取県支部

支部長 吉村 哲正



●校友会誌「かまた」50号を迎えて

校友会誌「かまた」発刊50号おめでとうございます。

WEBページも綺麗ですが、印刷物も「ほっこり感」があっていいものだと思います。

印刷の手間や送料など経費はかかりますが、是非60号70号と「かまた」の継続を期待しています。

島根県支部

支部長 藤原 義広



駅に自動改札の無い我が島根支部では、早く自動改札になることを望みますが、それ以上に校友会並び、校友会誌「かまた」のさらなる繁栄を出雲の大神様に祈念致します。だんだん!!

岡山県支部

支部長 白石 脩



●校友会誌「かまた」50号を迎えて

この度、校友会誌「かまた」が50号を迎えられたこと誠におめでとうございます。

私が昭和40年3月に卒業した2年後に「かまた」が創刊されました。号を重ねるごとに学校が発展していく姿を全国の卒業生に紹介してくれた本誌が毎年届くのを楽しみで拝見しています。

また毎号表紙を飾っている理事長の絵画の「表紙のことば」も絵画を拝見する楽しみのひとつです。

これからも学校と卒業生の絆として本誌の内容を充実して下さい。

広島県支部

支部長 福岡 孝司



「かまた誌」50号、おめでとうございます。

当たり前のことですが、50号ということは50年間「かまた」を発行したことになります。

この50年間「かまた」を通して皆様へ情報を出し続ける事は並大抵な事ではありません。

毎号、思いを込め今の工学院を知って頂くために学校関係者の方々が頑張って作って来られ、それを読む卒業生も楽しみにしてきました。そして、私もその一人です。

学校も50年の間に大きく発展をしています。古い校舎はなくなり、大きく立派なビルになりました。

しかしながら、在校生は「お早うございます!」「こんにちは!」と大きな声で自分たちが学生の時と同じように挨拶してくれます。工学院の魂は遺伝子の様に引き継がれています。嬉しい限りです。長くなりましたが、これからも100号に向けて頑張る情報発信し続けることを期待しています!!

山口県支部

支部長 浅井 雅博



校友会誌「かまた」創刊から50号を迎えられたことを、お祝い申し上げます。同時に1967年以来、今に至る長い道程で編集に携わってこられた方々のご苦労とご努力に対し、改めて敬意と謝意を申し上げます。

多くの専門学校があるなかで、日本工学院専門学校も激動の時代を通して礎となる教育を通した人づくりで、社会に多くの人材を輩出し続けた証の一つが校友会誌「かまた」ではないかと思えます。

末尾ながら、日本工学院専門学校と校友会誌「かまた」の一層の発展を祈念して、校友会誌「かまた」50号に寄せる言葉といたします。

徳島県支部

支部長 岡本 和之



●「かまた」50号を迎えて

このたび、校友会誌「かまた」50号が発刊されますことを心からお慶び申し上げます。

昭和48年に学校を卒業し、早40年が経ちます。仕事が終わると急いで、電車に乗り、目を擦りながら授業を受けたことが昨日のこと

のようです。「かまた」は学校の近状がよくわかり、いつも楽しく読ませて頂いております。日本工学院専門学校が益々が躍進されますよう祈念しております。

香川県支部

支部長 渡邊 博文



●「かまた」50号を迎えて

「かまた」50号を迎えて、ここに記念誌を刊行されますことに、心からお祝いを申し上げます。

50号は一つの節目であり、通過点ですが、これに過ぎる喜びはありません。

光陰矢の如しと言われますが、まさに過ぎてみれば時の流れは速く感じられます。

学校の発展は、いつも励みになります。大きな夢が実現していく様子を地方から味わっています。

愛媛県支部

支部長 佐々木 剛司



●校友会誌「かまた」発刊50号を迎えて

50号、おめでとうございます。「かまた」は、卒業生と学校を繋ぐという大切な役割を持っています。

手に取った卒業生の方々が、学生時代を懐かしむだけでなく、自分の原点を再認識し明日の活力となります様、校友会誌「かまた」の内容の充実と更に継続される事を願っております。

高知県支部

支部長 林 寛



●校友会誌「かまた」50号を迎えて

今年8月下旬発行予定の校友会誌「かまた」が発行50号を迎えるに当たり、高知県支部長として御祝申し上げます。

校友会誌として発行50号ということを開き、母校の歴史を再認識いたしております。

私が卒業したのは昭和52年3月。学部は、芸術学部放送制作芸術科でした。卒業後は、ニューテレスという制作技術の会社に勤務しまして、フジテレビで番組制作に携わりました。わたしが32歳の時に故郷高知に帰り、TBS系列テレビ高知で勤務して、現在はフジテレビ系列の高知さんさんテレビで勤務しております。

早いもので、私も就職して38年目を迎えております。母校の近況や同窓生等の情報を得るうえで必要な存在と成っている校友会誌「かまた」が、益々発行回数が増えて行くことを、卒業生として祈念しております。

福岡・佐賀支部

支部長 穴見 誠



校友会誌「かまた」50号おめでとうございます。私は創刊された頃在校生でした。

過去のことを校友会のホームページ「かまた」で拝見しています。

当時の事が思い出され、また工學院の発展の歴史そのものです。

12万人の卒業生、毎年の「かまた」楽しみに待っています。今後も工學院、校友会と共に「かまた」の充実していくよう期待しています。

長崎県支部

支部長 釘山 威



日本工學院専門学校校友会かまた誌、50号の発行、心よりお祝い申し上げます。

かまた誌50号と長い間発行できたのも、理事長はじめ諸先生及び校友会会員の方々のおかげと思っております。

私も当学院を卒業して47年程になります。学校で学んだことで天職を得ることができました。

これからの学校と校友会のますますの発展を願ってお祝いのごとばと致します。

尚、長崎県支部の会員の集いを11月8日に開催する予定です。会員の皆様の参加を心よりお待ちしております。



熊本県支部

支部長 清田 茂信



●校友会誌「かまた」50号に思う

日本工學院専門学校校友会誌50号(5号迄は研友会誌)記念号出版おめでとうございます。

校友会事務局並びに編集にご尽力くださった多くの方々のご苦労があったことと、感謝申し上げます。

学校の今昔や支部報告、会員近況メッセージ等々、そして表紙を飾る片柳理事長の絵や表紙のことばを毎号楽しみにしています。また、その脇にいつもひっそりと、しかし堂々と書かれている題字「かまた」が、代表的な工芸家・人間国宝の芹澤銈介先生の書によるものであるということは、同窓会誌としてはあまりにも贅沢であると言えましょう。

今回電子書籍版で今までの「かまた」を拝読してみました。驚きの連続でした。特に創刊号には電子工学に関する研究発表レポートや随筆、卒業後の随想または連絡報告等々、圧倒される内容でした。

その創刊号の目次を簡単に紹介しますと、

- 日本人の素顔：学院長 関 重広
- 実力者時代来る：片柳 喜平 事務局長
- 近代企業の求める人：村山 浩
- 優越感と劣等感：下斗米 清
- 幸福な人生を送るために：高橋 広
- 私のアメリカ見て歩き：香原 克彦
- 電気こそ万物の霊長なり：座談会
- 新幹線電子装置のすべて：久米川 孝二
- 第2級無線技術士 出題傾向に基く問題集：長坂 進夫
- 海外技術情報 電導性有機半導体：桜井 誠
- カラーテレビ技術上のポイント：伊東 一成
- これだけは知っておきたい通信工学史
- 夢の調理器 電子レンジ：黒川 晃 等々

単なる学校の卒業生のための会誌というより、その時代の最先端技術や日本のエレクトロニクスの歴史そのものが満載で、その内容の濃さに驚きました。

今私たちがあたり前のように使っている電気製品や通信、ハイテク製品がどのような考え方や工夫・苦労を経て日の目を見るようになったのか、その歴史がこの「かまた」に凝縮されている、そんな思いで読み耽りました。

皆様にもこの機会に是非創刊号をご覧になることをお勧めします。

最後になりましたが、母校の益々の発展を願うと共に、同窓会の歴史と日本の歴史がこの「かまた」にいつまでも刻み込まれていくことを祈っています。

大分県支部

支部長 森崎 俊彦



●校友会誌「かまた」50号を迎えて

今年8月下旬発行の校友会誌が50号との事、誠にありがとうございます。

昭和42年4月を創刊号とし大変発行に於ける御苦労お察し致します。私の入学は昭和47年ですから「第7号」位と思えますこの時代といえばミュンヘンオリンピックの開催、連合赤軍による

「あさま山荘事件」、川端康成のガス自殺等あり様々でした。通学において今振り返り思い返せば、私は新聞奨学生で、朝日新聞を品川区と大田区を朝4時から7時頃まで300部程配達の後バタバタで学校に通っていた事を今でも頭に焼きついて離れません。私の新聞配達は雨、風、正月、返上で務める義務がありましたが、このかまた誌の50号という輝かしい回数にもすばらしく地道な御努力をお察しいたします。更なる続刊を期待申し上げます。

宮崎県支部

支部長 川添 守



校友会誌「かまた50号」発刊、おめでとうございます。

私は卒業後帰県し、校友会誌「かまた」を手にするたびに、日々成長する工學院の姿に驚いております。また、校友会の活動欄も、毎号楽しみに見ております。

校友会誌「かまた」の発行に関わられた皆様改めて感謝申し上げます。本誌がさらに充実されます事を、ご期待申し上げます。

鹿児島県支部

支部長 久山 順一



校友会誌「かまた」50号発行おめでとうございます。

校友会活動を振り返ってみますと、昭和63年平松先生より突然お電話を頂き発起人会をこの鹿児島で開催するので、出席して欲しいとのご依頼でした。

卒業して20数年、なつかしい思いで参加しますと、地元出身の卒業生が14、5名出席し、学校の先生方から現状の話を伺った後、皆で在校時の話し等で大いに盛り上がる会となり、これがきっかけとなって校友会が発足し、このご縁で今日まで支部長をさせて頂いております。

これからの工學院の更なる飛躍と、校友会活動の発展を祈念致します。

沖縄県支部

支部長 徳田 永伸



卒業生の絆 校友会誌かまた50周年を、迎えおめでとうございます。

月日が経つのも早いもので、卒業したかと思うと、あれから38年余り! 今いえることは、試験の度に赤点常習犯で、500円罰金の貢献者かも? 今は、もう「昔はネ」等と楽しかった事だけが前向きするような年を感じるこの頃です。

学生時代には、特に忍耐とあきらめないと言うことを学びました。卒業後は沖縄に戻り製造業・ホテル・化学工場・病院等の仕事に付きました。今昔を振り返ると、転職転職を繰り返しましたが色々な経験を、現在の仕事に十分に反映されています。卒業と共に、この学校を卒業し良かったと思う今日この頃です。卒業し38年にも成りますが、現在も恩師並びに学園の職員にはお世話になっていますので、タダタダ感謝の気持ちです。

さて、現在の校友会の若い方の参加が少ないように、各県支部も頭を悩ましています。

是非在学生の方には、各県と知人、隣人OB・OGに声をかけて下さると幸いです。卒業生ですと……!

何かが変わります。「卒業生ですと……」

私自身にも、良いことが有りました。某テレビ局の電気設備試験検査で、一言「私もOBです」と! 先輩OB より「コーヒーの誘い」嬉しかったですね。

又は、仕事の契約時の時に、話のついでに工學院の話をしましたら、担当者から、私もOBですと契約もスムーズに進みました。是非在校生の方には、校友会を利用して頂きたいと思えます。

今後共若いOB・OGはウェルカムです。何時でも!

日本工學院は、いつでも自慢できる学校であり、これからも校友会は誇れる校友会でありたいです。

今は感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、学校の益々の発展を祈ります



各支部長の皆様、ありがとうございました。

● 講演会報告 ●



講師：やくみつる



平成25年11月2日(土)、「第13回 首都圏支部 会員の集い」の講演会に漫画家 やくみつる氏をお招きし、相沢早苗さんと共にトークショーを行っていただきました。トークショーの後には質問時間が設けられ、多数出される質問に対しても丁寧に答えていただきました。その時の様子をご紹介します。

相沢早苗—「何誌くらい書いていらっしゃいますか？」

やくみつる ▶ 時々ほんとにあの、漫画も書く人だったんですねって言われるくらい目立たないんですよ漫画自体は、でも今でも20ぐらいはやっていますので。日刊スポーツですとかね。

相沢早苗—「小さい頃はどんなお子さんだったんですか？」

やくみつる ▶ 東京オリンピックが記憶の最古の部分ですね。当時を覚えているんですが、東京オリンピックを生で見た世代は、もう二度目はいいかなあ、と思っていたんですけどね、だから当時を知らない人たちは多分ね、絶対東京でやって欲しいという気持ちは分かっているつもりでしたが、自分などは二度目はいいと思っていましたね。ところがそしたらばですね、反対派の一人として決定した日のNHKニュースでただ一人反対派の声として出されてしまったんですから。本当は結構もっと反対している人もいますよ。みんな反対していたんですけど、中々ね、全面になって出てこないの。私一人反対派の代表みたいなことで「これこれこういう理由で、もう二度目はいいかな。一回目の大成功を見ているので、あんなに成功しませんよと思いますよ。」というような事を言ったら、まあ非国民扱いされて、炎上したらしいですよ。私はネットをやっていないので、炎上自体、屁でもないんですけど。結構そういう声があがったみたいですよ。

相沢早苗—「結構やくさん、炎上しているという話を聞きます。私もネットとか分からないんですけど。炎上という言葉は最近覚えて、で、やくさん今回ゲストで来て頂けるということで、よく炎上、そなんですか？」

やくみつる ▶ 炎上させないで下さいよ。でも本当に気にしないですから。大丈夫です。ですから、オリンピックが原風景の起こりでございましてね。以来、嫌な子だったとは思いますがね。特に中学校、いい子なんです。先生受けに対しては非常にいい子で。逆に学友からは、嫌な子と。



特に中学の頃、あ、高校の時ですね、一番嫌な子だったのが、自分は横浜の桐蔭学園という所に行っていて、当時は詰襟だったんですけど、詰襟、着帽が大原則だったんですけどね。自分は一回もこの詰襟を開けて登校をしたことがなかったんですよ。今でも「Qさま」で詰襟のここ必ず閉じているのに気付かれた方はいるかもしれませんが、私は絶対に開けません。私はしっかりと。

そういうがちがちの校則遵守派だったものから、日直の順番が回ってくると、それまで知り得た学友達の悪の所行をです、誰々はこっそりバイクの免許取りました。」とか「誰々はタバコ靴の中に入ってます。」とか全部日直日誌に書いてちゃうんですね。「それでね、てめえ何書いてんだよ!!」みたいになるわけですね。でも書いてちゃうみたいなそんな子でした。

相沢早苗—「でもそういう所から、観察能力が育ったわけですか？」

やくみつる ▶ 観察という方に持っていかななくていいですよ。無理矢理。だから昨日今日ガチな事を言う様になったのではないという事です。

色々な人に噛み付きますでしょ私ワイドショーでね、やれ誰の所作がどうだとか、今だと日馬富士の土俵入りの親指があがっているのはいかがなものかと細かい事まで言うわけですが。

そういう筋があるんです。昨日今日、小言じいになったわけでは無いということなんです。

相沢早苗—「やくさんのプロフィールを拝見して、趣味の所が小言ですもんね。」

やくみつる ▶ 小言趣味ですね。嫌なじいですね。あ、でも、多分そういうイメージを払拭して頂くためにこういう場が儲けられていると心得ておるわけです。

相沢早苗—「そうですね、払拭していきましょう。では、やくさんをご紹介するにあたってプロフィールというか、やくさんの肩書きを色々用意させて頂きました。漫画家、これはもう、一番です。コメンテーター、エッセイスト、秘宝コレクター、日本昆虫協会理事、元相撲協会外部委員ということもされて、だから一つずつこまごま紐解いて行きたいなと思うんですけども。まずコメンテーターということですね、昨日嬉しいニュースがあったという事で、皆さんちょっと拍手のタイミングがあります、ミヤネ屋は昨日ご覧になっている方いらっしゃるでしょうか。」

やくみつる ▶ 昨日オンエアになりましたミヤネ屋。お昼日テレでやっていますけれどもそこで、「40代以上の男性コメンテーターでこの人に癒されてみたいと思う人は」というアンケートを大阪のおばちゃんに取りましたところ、見事6位に。はい。私これは小学校の同級生辺りから一斉に突っ込みがきまして、女子から「お前のどこで癒されたいんだ。」とか「世間はいったいどういうイメージを持っているんだ。」みたいなことを突っ込まれましたけれど。結構いるんですよ。私に癒されたいとおっしゃるような危篤な方が。

一昨日夜中の2時くらいに、この間やっぱりトークライブと一緒にやった、インディーズ系のかな歌手の方、若いお姉ちゃんでしたけど、それが夜中の2時くらいにいきなりメールが来て、「好きです」とかって来て。あのね、声に魅了されてしまったらしいんですよ。で、私はすぐメールを返したんですけど、あの、実は以前にも何回かそういう事を言われた事があって、人間は褒める所がないと行き着く所が声だってことくらい自分は心得ているという風に夜中メールを返したんですけど、「いや、それは甘く見てはいけません。それを重視する派っていうのは必ずいます。」っていう返事のメールが来ましたので。こういったその夜中歌手のお姉ちゃんとかこそメールをやるっていうのは実に楽しいもんでございますよ。でも実際そういう方がいたわけですから、今確実にモチ期に入っているなというのは、分かりますね。

相沢早苗—「今日の会場の方も、今日は癒されて来たよと言われる方いらっしゃいますよね、きつとね。声ですね。」

やくみつる ▶ ほんと人間はどっこも、だって私は「Qさま」の不細工チームのキャプテンですからね。この不細工チームのキャプテンを仰せつかる時に、プロデューサーから電話がかかって来て、まあ色々組を別けるわけですね、あの番組はね何かにつけて。関東関西とか早慶とか。で、ある時プロデューサーから電話がかかって来て、非常に言い出しにくい口ぶり、いつも気さくなプロデューサーが電話をしてきて、宇治原君がね私の宿命のライバルですけど、「宇治原君がイケメンチームのキャプテンなんです。で、つきましては、」みたいな言い方してきて。もうそこまで聞けば一を聞けば十を分かりますから。良いですよ。「どうしても、対立軸上」もう、良いですよと言っているんですけども向こうもちゃんと説明しないと思ったんでしょう。「どうしても、対立軸上不細工チームというのがいてその重責を任せられる人がいないもんですからこは一つ。」私は見てくれでこれまで人生で得をしたことが一度もないので、どうぞ。と申し上げましたけれども、で行き着く先が「声が好きです」っていうメールが届くってことですよ。

相沢早苗—「でもいいじゃないですか、夜中に若いお嬢さんだったんでしょう？」

やくみつる ▶ そう。カトパン似の。ちょうど週刊ポストの記者の方もその講演を聞きに来られてたんですけど。今、週刊ポスト、ずーっと「YURI」っていう謎の美人グラビアですとやって来たんですけど。だんだんその「YURI」って人がネタ元が割れて来ちゃった。謎の美女みたいに言われているけど結構AV出演歴とかがパレト来ちゃったので。もうその次にどうですかと私がお勧めしたら、そのカトパン似の子をね。週刊ポストの方がグラビアで行けるかもしれないとおっしゃるぐらいの方でしたから、中々の上玉でしたですよ。

相沢早苗—「ああ、よかったねえ。なんか同窓会で久々に会って聞いているような感じになってきましたけども。やく君よかったね。でもまあ、色々コメンテーターとかテレビでのお仕事をされるのでそういった出会いもあるわけですよ。」

やくみつる ▶ まあ今回を含めこういう形で釈明の場を与えられるというのは幸せな事だと思います。

相沢早苗—「今日はもうどんどん良い人になっていって下さい。コメンテーターというお仕事なんですけど立ち位置というか、出過ぎてはいけないし、しゃべらなくてもいけないしすごく難しい状況だと思うんです。私は司会が多いので思ったように振ればいんですけど、急に振られたりとか大変じゃないですか。あのお仕事。」

やくみつる ▶ まあ、確かに元々その口数が多い方ではなくて、自ら「はいはいはい」と言ってしゃべるたちでもございませんので。基本あの寡黙なコメンテーターという立ち位置を取っているんですね。コメンテーターしゃべらなきゃしょうがないじゃないって言うんですが、どうしてもコメンテーター席っていうのは、例えばあるネタを扱えば政治評論家の方がいらしゃったり、それぞれの専門家の方をコーナー毎にお呼びするケース多いので、そういう方がまず筆頭でしゃべらなくてはいけない。専門的な理解を得るためにしゃべらなくてはならない。その後、例えばヒルオビだと弁護士八代君が常識的な発言をされて、最後にこんな見方もありますよというか、何かシニカルなことを言ってコーナーを閉めるというポジションだと自分は心得ておりますので、もう最後にぱっと一言、言っちゃえばいいんだという気構えでいますね。ちなみにこの常識的な発言で世の奥様方からの受けも良い八代君が7位か8位でしたから、結果発言の少ない私の方が上にきているという現実。

相沢早苗—「凄い。沈黙は金の世界に行くんですね。印象あがってきました?皆さん。でも、テレビの前にいると、やはりやくさんが出演されているときは、やっぱりひねりの利いたみたいなのをこちらは期待するんですね。」

やくみつる ▶ 大概物事をあまり真正面から見ませんからね。言った事がどうしてもトンチンカンな事が多いので、それが取りようによっては「別の角度から見ている。」ということにもなるのか、とは思いますが。ただそれが最後、意見を差し挟める時はいいんですが、尺が押してもコーナーの時間がなくなってしまうと、この時点でCMに行かれてしまうと、本当にあいつは何も言わずに終わったってケースがあるわけですね。そういう事の方が多いので、「いいよあいつは何も言わない」でも、何か言おうとしてタイミングは狙っているわけです。得てしてその発言のわずかな時間を割愛されてしまうというケースが多いという事で…。

相沢早苗—「そうですね。テレビの番組というのはやはりスポンサーさんあっての。民放の場合は大事なので、何分何秒にコマーシャルというのが決まっているので、こっちがしゃべっていてもその時間になると強制的にコマーシャルになるので、そこまでのせめぎ合いというか、そのほんの数秒で、まとめた的を得た事をいうというのは、本当に凄い技なんです。皆さん何気なくご覧になっていると思いますが。なので今度テレビでやくさんご覧になったら、コマーシャルの前に上手くまとめた時はテレビの前で拍手をして頂きたいと」

やくみつる ▶ ちなみにこのコメンテーター席で、よく食べ物物の試食をする事が多いんですね。大概、一口頂いて何かを発するということなんですけれども。私はあそこで絶対残さないんですよ。必ず完食します私は。コーナーで食べ終わらなくてもその次のCMの間に必ず完食します。だってね、結構なお店のも出て来たりするんですよ。結構並ばないと買えないとか、ありがたいものが出て来て、それを一口食しただけで、ああだこうだと言うのも申し訳がないので、必ず全部食べるようにしているんですが。この間、初めて出て来た物に一切箸を付けずにコメントするという荒技に出たんですね。それは国会議事堂の中に吉野家が開店して。その牛弁当みたいなのが1200円ぐらい。国会議員がですね、大して働かもしない国会議員が巨万の歳費をもらってそれで食ってるのかと思うと腹が立つわけじゃないですか。日頃、勤め人の方が500円未満で済ませているというデータが出ている時にですよ。国会議員がのうとですよ。確かに1200円というのは、ど高い値段ではないかもしれない。主婦がホテルのランチでもっといいもの食ってるかもしれない。だけど国会議員が歳費でこれ食っちゃまずいだらうと思いましたので。それを批判しなければいけないわけですから。それでもってコメンテーター席でそれを食べてしまっただけは、それをとやかく言えませんので。「今日は頂きません」と。私初めてでしたね。コメンテーター席で箸を付けなかったのは。ですからちゃんとわきまえておるのでございますよ。



相沢早苗—「じゃこれから皆さん、番組でもやくさんの見方が変わってきますよね。何か試食コーナーになるとずーっと本当に食べるのかなという。」

やくみつる ▶ CMがあけて次のコーナーでも口動かしている時ありますからね。それぐらいきちんと頂きます。

相沢早苗—「そんな楽しみ方も皆さんどうぞなさってください。では、コメンテーターとして初めて箸を付けなかったと、かなり歴史が、コメンテーターとしての歴史が出来てきましたが、最初きっかけはどういうことだったんですか?」

やくみつる ▶ そうですね、20年くらい前ですか。当初はスポーツニュースのスタジオの隅っこにいて何かその日の野球なり、相撲なりのネタでフリップにイラストを描いてコーナー終わりにちゃんと出すという、そういうポジションをしばらくやっておりました。その時は発言もないですから、マイクも付けていませんでしたので絵だけ描いてスパッと落とすという。そのうち、絵を出した時に、一言二言やっぱり申し添えたいことがあるもんですから。マイクが付くようになって。そのうち絵を描くのも面倒くさくなって、もういっそのことコメンテーター席に来いというポジション変わっていきましてですね。

相沢早苗—「この学校にはマンガ・アニメーション科もありますので。マンガ・アニメーション科の学生さんいらっしゃいますか? どうですか、やく先生このは近くで。後で質問があったらまたお願いしますね。あのちょっとマンガ・アニメーション科の生徒さん達にもこれは凄く役に立つというか、凄い教えじゃないかと思ったやくさんの本の中からの一説が。四コマ漫画の場合、普通四

コマ目が落ちだと私など思ってたんですね。大抵の方そうだと思うんですが。」

やくみつる ▶ 起・承・転・結で描くという風に言われておりますけれども、これだとね、すーっと行っちゃうんですね。

相沢早苗—「これからちょっと、漫画論を」

やくみつる ▶ なので、これは望ましいケースなんですけど、むしろ三コマ目で一回「結」なんですね。三コマ目で一回落としておいて四コマ目でさらにもう一回ひねって落とす、か、まあこれがベストですね。それが叫ばなかった場合に四コマ目で「結」があったらば、何か落ちたと思ったら、脇にいる人間もう一言何か余計な事を言わすとか、それが事実上もう一回の落ちになるんですね。

相沢早苗—「二段落ちという。」

やくみつる ▶ これをするようには勤めるようにしています。中々これにピタッとハマることは無いんですけど。何かの媒体で四コマ漫画をご覧頂いた場合には、果たしてそれが三コマ目で一回落ちていて、確認して頂きたいと思います。あるいは、四コマ目の脇の台詞でもう一回余計な事を言っているか。これは勤めてはいるんですけどもね。

相沢早苗—「これからのやくさんの四コマ漫画の見方もその辺も。」

やくみつる ▶ でないと本当にね、つーと読まれてしまう。

例えば、まあこの頃は少なくなって来たんですけど、電車の中で自分の何か週刊誌を読んでおられる。それが自分の漫画の掲載紙であった場合に。自分のページにおける滞留時間、どれだけ時間が止められるか。まあ、つとめくられてしまうわけですね。それでいいんです。漫画とは所詮そんなものだと心得ているんですが、あまりにもつと行くと、やっぱりちょっと一回引っかかって欲しいなというのがあるんですね。それがやっぱり、構成にも関わってくるんじゃないのかなと思いますけれども。



相沢早苗—「四コマの場合だと、ストーリーとなりますけれども。一コマ漫画というのがありますよね。それはそれで大変な所というのはどういう所なんでしょう。」

やくみつる ▶ 一コマの方がむしろ難しいかも分かりません。絵としては簡単なんですけれどもその一コマの中に時系列があったりするケースがあるんですね。一コマ漫画だとそのシーンだけを描くので、その前もなければ後もない、ような感じなんですけれども、どうしても伏線が欲しいとか、一コマの中で時系列、時間の流れを表さなければいけない時というのは、例えば登場人物が複数であると、一つは過去の人要因といえますかね、一コマの中で時間を作るのが難しいですね。あと、一コマの中でそのものズバリを描くのか、題材にしてシーン自体を別の物にするのかっていうのがあって。例えばこの間、安倍総理が今消費税を上げる事になりました、もう一つ、復興特別法人税というのですね。大震災の後に導入された、企業の法人税に10%上乗せしてその上乗せ分を復興のために使いましょうという特別な税金があったわけなんです。この間それが、それはいずれ一年後ぐらいに廃止される予定だった。もう復興も進んだからいいでしょうという風に廃止される予定だったんですが。その廃止を一年前倒しにして早くに、もういいです、企業の法人税からは復興に回す特別増し分をもう頂かなくていいです、ということを決めたわけです。安倍内閣は。これはどうしてかっていうとその企業の負担が減る。企業の負担が減るとお給料が上がる。安倍ノミクスは究極、お給料を上げる事を目標としているらしいですから。そういうことによって企業は、どうぞ特別な税金を払わなくていい分、従業員の方のお給料を増やして下さい、と安倍さんは言った。ところが野党始めとして、そう簡単に上がるだろうかと、企業が負担が少なくなった分すぐには従業員の方に回らないんじゃないのという批判が出ているわけですね。そうするとこのシーンを描くのに、安倍さんが実際にそのことを言った発表の場、演説台みたなの前でマイクを出して、そこで「これ以上頂きません。」という風に発表のシーンをそのまま描く。実際に下書きでそう描き始めたんですけど、ちょっと凡庸だなと。つまらないなと思まして下書きを描き直したんです。それで安倍さんが実際に会社のものと思われる大きな金庫をこじ開けようとしている。大きな金庫をダイヤルを回しながらこじ開けようとしている。つまり会社が、会社の金庫にお金をしまっ込んで、従業員の方に払って下さいと。そういうのを、金庫をこじ開ける構図にした。金庫の横に社長さんらしき人がいて、「そんな税金をちょっと減免してもらったからといってそう簡単に開かないよ。」という風なことを言っている社長さんがいる。このシーンを変えたことによって、より漫画っぽくなった。おかげさまでこの漫画はその週のTBSの朝の時事放談で紹介されました。端的に表しているということですね。そういう風にシーンを変えるというのも一つの手ではありますね。一回下書きをキャラにするという行為は当然そこに表れるわけではないですから。それぐらいのことは。やることはやっていますよ。

相沢早苗—「でも、そういうネタ探しというのが。何誌も持っていらしゃると大変ですよ。」

やくみつる ▶ まあ、描く時間というのが、私の、絵が絵なのでね、いくらもかかるわけではないんですけど、ネタが出てしまえば四コマ一本は

30～40分で描けますし、一コマも、もっと短い時間で描ける事もあるんですが。問題はそのネタを考える時間の方なんですけれども、これを考えている間というのが、多分世間から見るとあいつは何もしていない。よくネタを考えるためにそこら辺をぶらぶらしているんですが。「あそこのご亭主は何で昼間からぶらぶらしているんだらう。」というくらいぶらぶらしています。その中で考えたりもするので、怠惰な時間を過ごしている様に見えるかもしれないですね。キョッドっていますよね、今風の言葉で言うと。例えば今日、こちらへ来るとき、家は田園都市線の桜新町なんです、二子玉川～大岡山経由でご当地蒲田へ参りました時に、大井町線の車内、田園都市線だったか、和菓子の亀や万年堂の車内吊り、広告がドア脇に貼ってありました。普通あそこはよく、日能研が貼ってある所ですが今回は亀や万年堂が貼ってありました。新作の和菓子が出来ました。ナボナだけじゃないんだということがですね。その新作の和菓子の中に、最中の広告でしたが。鹿の子という粒の入ったあんこ、鹿の子餡の入った最中がいくつか新作で描いてあった所に、手亡鹿の子最中という文言が目についたんですね。実際は「しゅぼう」とは読まないんですが、手足の手に死亡記事の亡。亡くなるんですね。手亡鹿の子餡とは何事だと。これは見た事もない文字だったので。

相沢早苗—「これは近々やくさんの漫画になるかもしれない題材なんですか？」

やくみつる▶はい。私ですね、「みんなの漢字」という漢字雑誌にも漫画を描いているので。

この手亡というのが読める方いらっしゃるかと。和菓子屋さんの方いらっしゃるかと。これ私も気になりましたものですから、これは一体どんな餡なんぞと。そしたらこれは手が亡くなると書いて「いんげんまめ」と読むそうなんです。いんげんは「隠元」と書く表記もあるそうなんですけれどもこういった表記もあるそうなんです。インゲン豆を漉して作った餡ということなんだと思うんですが、これは出ますよ。「Qさま」に。これはいかにも重棒で狙われそうな。一見簡単なんだけど読めないというような。構成作家がいかにも使ってきそうな感じがします。なんだこれとといった顔をしながら「インゲン豆」と書く時の快感と。いったらないですね。私いまからそのシーンが。後ろで優香が「凄いや」とか言ってくれたりですね。もうその一言で本当に報われるんですね。さあ〜ずが何言ったって別に嬉しくもないんですが、優香ちゃんに言われるとですね、頑張ってきたかいたが。あったら。まあ特に漢字を日頃、例えば辞書を覚えるとか、漢字練習帳をやるとかしては一切ないんですが、漢字は基本街中や何か本で読んだ時に、あら何これって引っかけって調べるもんだと思っているので。これで今日は一つ。

相沢早苗—「今日は皆さん帰りの電車の中、東急線をお使いの方探したら、このことかと。これがどんな風にやくさんの中では使われるんですか。どんな風にこねていくと。」

やくみつる▶さあたっては、朝日新聞から出ている「みんなの漢字」という雑誌の。これは隔月刊なので次の締切は年末ぐらいになっちゃうと思うんですけど。そこでは必ず、街の中で見聞きした、おやと思った漢字でネタをこしらえる。という連載なので、もう次のネタの半分は確保されました。

相沢早苗—「嬉しいですね。この制作段階というか最初のきっかけの時から。それが自分で文字の上で見つけた時に、本の上で見つけた時に、ああ、あのことだと言う風に、ここに皆さんの快感にして頂ければと思います。そうやって本当に何もしていないように見えても常に考えていると。」

やくみつる▶常にネタを仕入れるというのは、実はクイズ番組の常連と言われる方は皆やっているんですね。問題を想定して。特に何かで勉強しているというわけではないんですけど、日頃からチェックをしているというのは良くやっているんですけど。以前、このところちょっと開催がないんですけど。クイズの番組の常連達が、秘密裏に都内某所に集結して、自分達の持ち寄ったネタを出し合うクイズサミットというのが行われているんですね。宇治原くんとか、ほかにもいろいろ。そういう実はクイズサミットというのがですね。これはお料理を運んでくださる店員の方がどん引きされるんですね。「こいつらこんなことやって酒呑んでんのか。」と。何が楽しくてやっているんだと。ところが我々にとっては、問題を作ってくるのが実は楽しいんですが。



実は今日一つクイズを作ってきました。これは以前そういう席で出した事があるんですが。

ここに伊藤園のお茶がごさいます。良く見かける伊藤園のお茶とはラベルが違います。伊藤園のお茶シリーズの中でも、エコパッケージと呼ばれるシリーズのお茶で。大手需要向け、放送局とか。なぜエコパッケージと呼ばれるのかということが後にその理由が二つ書いてあるんです。一つは、このラベル。この学園祭でもゴミの分別に対して非常に几帳面にやっていたりなど。

よく、このラベルは剥がして下さい。と書いてありますよね。このエコパッケージといわれる商品は、このラベルの部分、回収されてきたペットボトルを再生してこのラベルを作っているんだそうです。ペットボトルからペットボトルを作るっていうのも技術的には可能らしいんですけど、まだ衛生面とかがクリアできなくて、まだそれは実用化に至っていない。だけでもこのラベルを作る分には良からうということになって。ペットボトル中々、リサイクルに回してもプリーズを作るといっても、ペットボトル分全部プリーズ

を作るのも大変ですし。中々その再利用方法というのもメーカーも模索しているんですけども。一つはこのラベル部分をペットボトルで作っている。そこがエコですよ。もう一つ理由が書いてある。実はここからが問題です。お茶ならではの理由でですね、これがコーラであってもオレンジジュースであっても違う。お茶ならではの理由でこれがエコだという。どういった工夫がされていると思いますか。

お茶ならではの理由がこの伊藤園のエコパッケージには印刷されている。

お茶の飲料を作るにおいて一番大量に出るゴミは何ですか。お茶がらがどう関わってくるんでしょうか。非常に難しいと思いますけれども、難しい問題というのは聞いた後に「なるほどな」感がないとダメなんです。そうきたかという驚きがないと問題として成立しないんです。今日ここで見た人が周囲の人にエコパッケージの事を話たくなるようなことでなければ問題として成立しない。

会場の方—「ラベルの塗料がお茶がらの」

やくみつる▶それは書いていませんので多分違うかもしれません。

会場の方—「お茶がらを固めて段ボールにしまおうという。」

やくみつる▶素晴らしい。これの輸送用の段ボールにお茶がらを混ぜる。素晴らしいでございます。そのことが書いてあるんですね。

香り豊かなこのお茶。段ボール箱には茶がらが再利用されています。これ素晴らしい。正解率0.1%の問題というのが良問ですね。これはクイズサミットでも正解には至りませんでした。

これは正解率20%くらいの問題なんですけど。飲料の自動販売機。商品が並んでいてボタンが並んでいて。もう一列商品があって選択ボタンが並んでいる。もう一列ボタンだけあるんですけど、これはどうしてでしょう。全部じゃないがそういうのが出て来ている。商品ボタン一列、商品ボタン一列、ボタン一列。この最後のボタン一列は何でしょう。一見余計と思えるその一列は何でしょう。これは20%くらいですか。



会場の方—「車椅子の方が押せるように」

やくみつる▶正解です。今日も車椅子でお出で頂いているお母様もいらっしゃるんですけども。車椅子を使われている方とか、小さなお子様とか、上段に届かないということで。誰もが使えるようにというのはユニバーサルデザインと言いますが、ユニバーサルデザインの一環としのごろこういう自動販売機が増えて来ていると。

相沢早苗—「そういうのは漫画にしようとはならなかったんですか。」

やくみつる▶むしろこれはクイズサミット用です。雑学王とか出るんですよ。そういうのが。介護を今ご専門にやられていらっしゃるということですが、そういう施設にそういう自販機とか無かったですか？

相沢早苗—「ちょっとチェックしていなかったのが今度見てみます。私この学校の非常勤講師で子ども達と蒲田の老人ホームを元気にしようっていうイベントを展開していますので、今度聞いてみます。そうやって漫画のネタとクイズ王のネタと本当に忙しいですね」

やくみつる▶まあ本当にチェックはしていないと中々補充できませんのでね。

相沢早苗—「その合間にさき程プロフィールを見たら昆虫協会、それもちょっと気になっているんですけども。」

やくみつる▶虫好きということで、昆虫協会という。これは学術団体ということではなくて、このごろ肩身の狭い思いをしている虫取り、虫好きをもっと啓蒙しようという趣旨で今から十何年前に設立された任意の団体なんですけれども。これは、一般会員は4000円、年会費を多く払えると理事の肩書きが買えるんですよ。漫画家というのは肩書きがございません。理事って肩書きが欲しいということで、年会費6000円のところ10000円払って勝ち取ったネタ、理事という肩書きです。別に何をやるわけでもないんですが、とかくこのごろ虫取りをしますと、余分な殺生なんていう風なことを言われて。苦々しく思う向きもあったりするんですが、実はそうではなくて、この都内でも、そういう事を言われるというのは何がいるかも良くわからなくておっしゃったりするんですが。我々の方がよっぽど気を配っているんですね。どこに何が歩いておるといふようなことを。自分は何年か前に桜新町だけの昆虫図鑑を作ったんですけど。地元のどこのお宅の庭には道路に面したところに何が埋まっているので何が見られるというレベルの局所的な図鑑を書いたんですが。そういうことによって、気を配っていると、都会には虫がいなくて

言われるのはとんでもないことで、絶妙の気候帯にあるこの日本の、NYだ
ロンドンだ北京だとは比べ物にならないくらい熱帯性の虫から北方系の
虫からいますので。実に愉快になるくらいな虫の多さなんですよね。元々
虫が好きで愛でているんですが、この二千年代の初頭にツマグロヒョウモ
ンという、ひょっとしたら目にとまっている、いや、止まっているはずなん
です、絶対に。今、白い蝶や黄色い蝶よりも秋口になると都内で活発に飛
び回っているヒョウ柄の蝶がいます。ツマグロヒョウモンという蝶がいます
ですけど、これは元々は日本だと和歌山県より南、和歌山とか高知のへ
りの辺とかそちらの方にしか住んでいなかったんですけど。

それが二千年代のちょうど始めころ、爆発的に都内に増え始めたんです
ね。だから最初に見つけた時は、家のちよい手前くらいで発見したんです
よね最初。あっと思ってすぐに網をもってだーっと出てきました。それぐら
いにびっくりするぐらいの。ところがこれが今や一番普通の種類になってし
まっています。もちろんその背景には温暖化とかややこしい問題もあるの
かもしれないですけども、そこまで堅苦しく考えないで、都内にいながら
南方系の蝶を愛でられる楽しさよ。実際きれいな蝶です。実際きれいな
蝶です。もう、ちょっとシーズン遅いですけど、今いるやつはもうちょっと
別の種類のやつがいますけど。気を配ってやるとが
ん目に入りますので。これは実に面白いですよ。



相沢早苗—「こういった話を伺っていると、ちょっとしたことに関心を持つとすぐ人生が充実しているというか、深みがあるんだなと。」

やくみつる ▶ ちょうど今頃ですよ、ツマグロヒョウモン、秋口に発生するわけですね、それが卵を産みましてこれがすみれ科の植物を幼虫
は食べるんですね。そうすると従来そんなにすみれ科は都内にがんがん生えているわけではないんです。このごろガーデニング
のおかげで餌が豊富になったらいい。これが分布を広げる要因になったのではないかと観測する向きもあるんです。実際、餌
が足りないはずですから。野のすみれだけでは、この時期になると秋に産み落とされた卵が幼虫になって今、さなぎを迎える
時期なんです。さなぎで冬を越します。そうすると幼虫が食べてすみれを離れて、よくウロウロしているんです。一見し
てすぐにツマグロヒョウモンの毛虫と分かる毛虫です。4センチくらいのいかにも毒々しい毛虫で、真っ黒で、朱色のドットと
いう非常に悪趣味な色をしているんですが、これがきれいな蝶になりますので、絶対につぶさないで欲しい。良くアスファルトを
ウロウロしているんですよ。土になる場所をさなぎになる場所を探して。これは手でしゃくりあげても何のお痛もみせんので。ど
うか車に轢かれる前に脇のどこかお庭の植え込みでもいいですから救って頂きたい。毛虫は何でもかんでも手を出しますと
痛い目ありますから、ちゃんと毒があるかないかというのをわきまえておれば。

相沢早苗—「昆虫一つ一つ語らせたら何日あっても足りないくらいになりますね。もう一つ私も肩書きで気になっていて、コレクターとい
うので、いろんな事をいろんな形で掘り下げている方だなと思うのですが、コレクターというのも大きな肩書きですね。」

やくみつる ▶ 漫画家というのが、本来締切に間に合わせて原稿を入れまた次の締切ってことで、非常に平板な日常を余儀なくされるん
です。なのでそういう平板な日常に何か日々小さな喜びなり、小さな驚きが無いと、とてもじゃないけどかたつてやっ
てられないわけですね。なので沢山コレクションをしておりますと、これがね三ヶ月に一回出物がありましたなんていうコレク
ションだとほとんどの時間がつまんなくなってしまう。ところが、沢山のジャンルで集めていると、毎日何かのジャンルで増えるわけ
ですね。必ず増えてく。そうするとこの平板な日々そこにちょっとアクセントになるんですね。

相沢早苗—「例えばどういう物を。」

やくみつる ▶ 昨日増えたのは、高城 亜樹のサインでした。サインはね、雑誌の表紙にサインを頂くというのをライフワークとしてお
まして。まあ、既に2000人近くの方のサインがあるんですけども。まだ貰っていない人が、一万人分くらいの雑誌がストックされて
いるわけですね。今日は誰に会うな。昨日ヒルオビでお天気コーナーが高城 亜樹ちゃんだったのでちょっと。

相沢早苗—「雑誌の表紙になっている方の本人のサインをそこにもらうという。それは大変だ。」

やくみつる ▶ それのシリーズが昨日は二冊増えましたですね。ところがこれはね持っていますとですね。間に合わない事があるん
ですね。例えば、森光子さんとかね。そういう時に、普通「残念。お亡くなりになって残念だな。」とか、もちろんそうなんです
が、訃報の第一報を聞いたときにまず最初に思うのが「しまった。取りのがしたか。」というのが不謹慎ながら起きてしま
うんですよ。その後悲しみがじわじわ湧いてくる。

相沢早苗—「でもそういうのが、その思いでと共に宝物になっていくんですよね。今までそのコレクションの物って結構高額な値段が
ついたりとかってあったんですけどね。」

やくみつる ▶ 結果的にそういうことになりませんが、私の場合基本もう、銭金では、はい。あんまり動きませんので。雑誌はなるべく、古本でい
いんで。アマゾンとかヤフオクで手に入れたりしていますので、本当にあの、100円200円の所。それに付加価値を付けた
一冊一億円になってしまったりするんですよ。まあ、一億円で、ためえて勝手に言っているだけなんですけど。

相沢早苗—「物に付加価値を付けていくっていうのを安くポイントにされているんですよ。」

やくみつる ▶ この九月に待望の一品が手に入った。これはね、ちょっと若い方はあまりびんとこないかもしれない。40代以上のご年配の方

であるとピンとくると思うんですけど。この間、それにそなえてアマゾンで格子戸買ったんですよ。これ何に使ったでしょう。結
構売っているんですよ。誰が売りに出しているか知らないですけど小民家からその取り外された格子戸のようなものが結構
な値段で売っている。誰が買うんだろう。こういう奴が買うんですよ。それを。何に使ったでしょう。これはですね。実は九月に
小柳ルミ子さんとお食事のチャンスというのがあってですね。これで分かる人は分かるですね。小柳ルミ子さんという、今
でもパリの現役ですけど、昭和四十年代後半くらいからヒットを連発された歌手の方がいらっしやいます。瀬戸の花嫁と
か知っているでしょ。その歌手の方なんですけれど。この方のデビュー曲が「私の城下町」という。今、前の2人に集中的に話
していますけど。「私の城下町」というヒット曲がありまして。その出だしが「格子戸をくぐりぬけ」。この年代のおばさんは全員
歌えるという。私は、昭和歌謡シリーズというコレクションのシリーズがあるんですが。普通にサインを色紙に頂くというのでは凡
庸にすぎると。まあ、その歌手の方と統合で結ばれるというような、縁の深いものにサインを頂くというのをジャンルの一つとし
ているんですけど。小柳となったら、格子戸に頂くしかない。とずっと思っていた。ところが、一緒にお食事出来るという
事になったので、格子戸を持っていったんですね。本当にでかいのはですね、だいたい会場が青山でしたから、そこまで持っ
ていけませんしね。しかも格子戸だどこにサ
インをしていいかわからない。細いですからね、
棧が。ちゃんと小振りな格子戸があつて、不織
布で障子の様に裏打ちがされている。小柳さ
んは書をたしなまれる方です。その不織
布にでかかど筆を揮って頂まして。それ
によって、小柳ルミ子サイン入り格子戸って
いうのが完成したわけですね。今までに格子戸に
サインをした事が無いとおっしゃっていたので。
「じゃあこれで最後にして下さい。」と。そう
なると、一点物です。この一点物というのが
実は結構あつて。八代亜紀さんにサインを
して頂いた、我が国一点物はなんですよ。



相沢早苗—「魚は炙ったなんとかだから。」

やくみつる ▶ 素晴らしい。イカにサインをしてもらって。こういう風にすんなり出てくるくらい歌詞を出さないといけないんです。

相沢早苗—「八代亜紀さんといったらそれですもんね。」

やくみつる ▶ 炙ったイカでいいってうんで。炙ったイカで良いというそういう歌詞の歌があったんですよ。

相沢早苗—「舟唄という歌があるんです。大ヒット曲。」

やくみつる ▶ これは合羽橋に食品サンプルを売っている店がありますよね。そこに行って、「イカを見せて下さい。」と。色んなイカが出てくる
んですよ。生のものから縁日で売っているぼぼぼ焼みたいなのとか色んなイカが出てくる中で。一番サインがしやすくて、舟
唄の世界に合ったようなイカのサンプルを買って。これはNHKの歌謡コンサートかなんかのステージの上で貰いました。大胆
不敵な。これはちゃんとプロデューサーの許可を得て。「すみません番組の中なんですけれど八代さんにイカにサインをもら
って良いでしょうか。」っていうですね。

相沢早苗—「それは喜ばれましたね。どなたもが。」

やくみつる ▶ 中条きよしのサインはどこに入っていると思いますか。

相沢早苗—「あのね、学生が多いんですけどもね。まあ、行きましょう。折れたタバコですか?」

やくみつる ▶ そうそう。わざわざ吸っていたタバコを折って頂いてそこに、中条きよしって入っているんですよ。素晴らしいシリーズなんですよ。
この昭和歌謡シリーズ。だからこれを、まあ、昭和歌謡シリーズは若い人は中々出来ないかもしれないですけど、平成J-
POPサインシリーズとかやればいわけですよ。私はそこら辺はよく分からないんですけど。EXILEならEXILEで何かピッ
タリな何かいゝ物があつたりするんじゃないですか?

相沢早苗—「Choo Choo TRAIN そういったものにサインをもらいに行く。」

やくみつる ▶ ただサインを頂くのではなくて、サインをする方が思わず失笑してしまう様な物を狙うっていうのが、和やかにサインを頂くコツな
んですよ。もうそんな時間。まだなんのためになる話もしていないですよ。インゲン豆の読み方くらいですよ。

相沢早苗—「大丈夫です。ペットボトルもこれ、エコの話も話していますし。大丈夫です。やくさんにどうしてもこういう質問をしたいとい
う方。」

会場の方—「書をやるんですけども、漫画道という。昔ビックコミックによく出ていたんですけども。これを書きまして、先生にお渡し
しようと思って作ってきたんです。ビックコミック毎週読んでいるんですけど、さだまささんが俳句をお書きになったん
ですけど。これ近代書文っていうんですけどね。そういう書体で書いたんですけども。もし、さださんが私に欲しいと言
えばここに連絡頂ければさしあげますと。」

やくみつる ▶ 警察関係の方ですか。神奈川県警ってことですが、私は今クロコーチにはまっています。この十年で一番面白いドラマだと思う。クロコーチ。神奈川県警の横浜にある建物出てきていました。クロコーチ面白いですよ。毎回主要な人物が死んでいくっていう。昨日もてっきり名高達男はこのまま殺されるんじゃないかと思っていましたが、まだ生きていましたね。ありがとうございます。

かまた祭に伺いして、誠に興味深いと思ったページがございました。

相沢早苗—「皆さんパンフレットお持ちの方はちょっと開いて頂くと。」

やくみつる ▶ こちらの日本工学院さんと東京工科大学さん。あの下町ボブスレーに多いに関わっていらっやっ。

相沢早苗—「日本からの挑戦状というページです。」

やくみつる ▶ この下町ボブスレーというのは聞いていましたが、こちらの学校が協力されているというか、主体になってやっていらっやるといいます。実は私、ボブスレーある時、何年か前にですね、ボブスレーがやってみたくてしょうがなくなってですね。どこで出来るんだという話になったら、その時稼働していたコースがバルト三国のラトビア。ラトビアで乗れるというのを見まして。即効とんで行きまして。やってまいりました。オリンピックの選手が練習するくらいの本格コースなんですけれども。千何百メートル、記録七十何秒。出るんです記録が。それが早いのか遅いのかも分からないんですけども。もう二度とすまい。と思いましたが。要するにあれを、ボブスレーの乗り手達は微妙な体重移動だとかコース取りとかで0.001秒を争うわけですよ。とてもじゃないけどそんなことやっている、「きゃー！」ってやっている間に終わりましたですね。安全ベルトも何も無いわけですね。たまたと走ってピョンと乗るわけですから。そのあとベルトなんかしている余裕なんてないわけ。素人がいきなり乗ってですよ。何の説明も受けないんですよ。

相沢早苗—「でもよくやらせてもらえましたね。」

やくみつる ▶ そういうコースなんです。日本ほどあまり安全管理とかあまり細かいこと言わないんですよ。来た客人を乗せるっていう。もちろんパイロットっていう最初に乗る人は専門の方がやっているんですけど、四人乗りの後ろ三人は素人ですよ。後ろから来たのはどこかアイルランドから来たどっかの兄ちゃんでした。そういう全くの乗り合わせの混成部隊でいきなりオリンピックコースを走れっていうですね。これは二度とやりたくないですけど一度はやっていいと思えますよ。実に面白いですね。アホな競技だっということが良くわかりました。素人はやっちゃいけないとおもいますあれは。

相沢早苗—「でもねこのボブスレーも凄くお金がかかるので下町でということ。この間ニュースでやっていた大田区ってここから出ていたんですね。」

やくみつる ▶ 注目したいですね。まだ日本はボブスレーではあまりいい数字は出ていませんけれども。マシンの改造によって、少しでもタイムが縮まれば。面白い事になるかもしれない。

相沢早苗—「工科大学も工学院もみんな頑張っていますのでやくさん、これからもこれをご縁にまたよろしくお願いします。」

やくみつる ▶ これを中心にこちらの学校の活動も注視してまいりたいなと思っております。

相沢早苗—「時間に限りがあるのが本当に残念なんです。締めです。やはり学生達に伺いますか。やくさんといえば、相撲のことに関しても何にしても結構、色々ところで叩かれたりとか、落ち込む事ってあるんですか。」

やくみつる ▶ 今ちょうど、ほんと落ち込んでいるんですよ。落ち込んでこれなのかと思われるとまあ、アホみたいに思われますけど。基本、ポジティブかもしれませんが。楽観的かもしれませんが。それを皆さんにどうお分けするか。作品の中では中々ね、私の漫画を読んで大笑いってことはないのですね。作品を通じては中々出来ないんですけど。私基本、思っている事が一つあって。世の中は理工系が動かしているというのがあります。私は準文科系なんですけれど、何にも出来ないんですよ。何にも出来ない。世の中の物一つ使うにしたら、それは当然物作りが関与してたりするわけで。基本世の中をまわしていたり、動かしているのは理工系系だと思っています。一つよろしく願致しますということしかもう、申し上げられないんですよ。本当にそうですね。無力ですよ。人生で割った卵の数がこの間ようやく6個目かな。ずっと五つ未満だったんですよ。卵の一つも割れないですからね私は。必ず親指が入っちゃうっていう。それくらい何にも出来ないの。

相沢早苗—「でも、そういう風に色々思っ。それも超プラス思考で行くというか。そういう落ち込んだ時とか叩かれた時とかの、やっぱり学生にはそういう時にどう対処していくかっていうのを、私最後に聞かせて頂きたいんですが。」

やくみつる ▶ 物を創作していく事によって、世の中を良き方向にと、願って止みませんですよ。至ってシンプルですけど、ほんとそれですね。



相沢早苗—「終わりですか。」

やくみつる ▶ なるようになりますよ絶対に。

相沢早苗—「なるようになる。頂きました。なるようになる。これからも色々ところで活躍になる。一番楽しいのはどんときなんですか、やくさんは。」

やくみつる ▶ 夜中に思いがけない人からメールが来る時なんですね。

相沢早苗—「はい、じゃあ今日ここにいる若い女の子からもメールが行ったらいいですね。ないとは思いますが。これからこういうご縁で今日ここにいる皆さんはテレビの前でこれからのやくさんの活躍を色々応援させて頂きたいと思えます。」

やくみつる ▶ 蒲田は存外面白そうだと分かったので。池上までは来るんですが。中々その後二駅が遠かったんですけど。蒲田中々面白そうだなと思いましたので。

相沢早苗—「これからは工学院通り等も面白いので。蒲田ごひいきに。ということで、楽しかったですよ。ためになるお話しいっぱいありましたよね。インゲン豆。手亡鹿の子と。」

やくみつる ▶ もし、そのあの亀や万年堂見ていなかったら何一つないところですね。

相沢早苗—「見えない所で、色々ちゃんと、ちゃんとね、ちゃんとやっているんですよ。なんていうか、こんなまとめでいいですか。なのでこれから私たち色々所で楽しませて頂きたいと思えますので。今後ともどうぞよろしくお願いします。」

やくみつる ▶ ボブスレー頑張ってください。

相沢早苗—「質問とかよろしいですか、一言だけよろしいですかやくさん。」

会場の方—「漫画業界でアウトラインというかやってはいけないことって。」

やくみつる ▶ 現実から離れすぎることが一番まずいと思います。先日アニメーションプロダクションのトップクラスの方達との座談会が大分であったんですけど。結構そこに出席されていた皆さんは、将来は決して暗くない、明るいということをおっしゃったんですね。そういった時にはだいたい対立軸として自分は何か言わなくてはいけない。で、自分が懸念するのは「なるほど、技術的にも発達しているし、絵も総じて上手なんですけど、あまりにも現実から遊離してしまうとファンタジーの世界の中だけで遊んでしまわないか。」ということ懸念するわけですね。どんなに夢物語でも現実との連関があって成立するものだと思います。常に現実何が起きているかというのを、どこか作品の中に活かすというかな。メッセージを入れるという作業は無しにしてもらったら困るなと思ったんですね。例えば今、秋葉原盛り上がっていますが、秋葉原の少なくとも二十歳以上の方達がどれくらい選挙に行っているかなと。別に選挙運動しろと言っているんじゃないんですけど。最低そこ辺で現実との関連を持っていないとほんとにその中だけの夢物語だけで完結してしまっはよろしくないなと思いました。やっぱり現実に興味を持ちつつだと思えますね創作も。ちゃんと言う事は言うんです私も。こういう的確な質問がとんでくるとですね。

会場の方—「コメディ漫画っていうか、例えばなんかの漫画で、例えばドラゴンボールのキャラクターで出てくる棒線引いてみたいなのはあれは許可を取って描いているんですか、それとも勝手に描いているんですか。」

やくみつる ▶ 厳密に言うと色々やこしい著作権の問題とか出てくるんですけど。良く使われる手として、これはオマージュですという。要するに原作を尊敬してそれへのメッセージとして描いているという手法はあります。自分も何度かその手を使った事がある。例えば、ある高名な先生がお亡くなりになった。その方の追悼漫画を描く時にどうしたってその人の作品漫画を登場せざるを得ない。そういう時はオマージュですということであればそうやこしいことにならない。ですけれどこの間、やなせ先生がお亡くなりになった時に、自分はやなせ先生を実はディズニーランドで見かけた昔。そういう漫画を描いたんですが、そこにディズニーのキャラクターをもってこれにシャレにならないので。非常に著作権管理がうるさいところなので、それはシルエットで描くとかそういう手法でいった。やっぱり相手を見るというの。相手がシャレがきくのかきかないのか、オマージュがきくのかきかないのかっていうのも注意した方がいいですね。そうやいのやいのいうこともないんですが、中には非常に神経質なところがあって。ディズニーとサザエさん関係は気をつけるという事です。

会場の方—「好きな勉強を得意な勉強にするにはどうすればいいですか。」

やくみつる ▶ 自分も今何かを覚える時には使っている手法で。自分で問題を作ることですね。

ノートに暗記していきたい事柄を当然書くわけですね。書き留めるわけですけど。質問を書いた方がいいわけですね。これこ

れこれは何。例えば大化の改新を覚えたい時に、大化の改新は何を書くのではなくて。これこれの時に誰が何をしたという質問を書く事ですね、自分で。そうすると暗記の習熟、染込みの度合いが違ってくるということですね。

会場の方—「いつもテレビで色々と拝見させて頂いて、もしやくみつるさんにお会いする事ができれば、是非聞きたいなと思っていたことがございますのでお願い致します。やくみつるさんは非常にこだわりが合って完璧をお求めになっている方とお見受けするんですが、お名前では「やくみつる」なんで。どの辺りでご満足されて「みつる」になっているのか。例えば人生70%で「やくみつる」なのか。あるいは99%で「やくみつる」にしているのか。その人生観の満足度の。どこで「みつる」にしているのかお伺したい。」

やくみつる▶数値化して考えたことはないんですが、今算出せよということ承ったら、どれくらいかなと頭の中でイメージしたのは、30～40、40はいかない30%代じゃないですかね。とても「みつる」という状況ではないんですが、それは上をみたらきりがないので、そこはかなり現実を受け入れるたちだと思いますが。

もし、己の好きなようにとなればそれこそ、自分自身が為政者となって独裁者にでもならない限りは。それでも満たされるかどうか分かりませんが、それは己の希望する所とのそごというはおおよそ、ほとんど埋まる事はありません。今が、このまま全部スマホになったらどうしよう。と思っていますけれども、これはあらがったってしょうがないですからね。

会場の方—会場の方「やくみつるとうのは本名なんですか?」

やくみつる▶いいえ。これは違います。麻雀のやくまんから来ております。麻雀の高い手というやつですね。トランプのロイヤルストレートフラッシュというものです。

会場の方—「それと、収集したものを個展にだすんですか?」

やくみつる▶以前十何年前に一度やったことがあるんですが、搬出ともう一度撤収の作業がこんなに面倒くさい物かと思ったので、多分個展のような物はやらないと思うのですが。今、考えておりますのは私が集めた数々のものが、家はお世継ぎがおりませんのでどこに寄贈していったらいいか。たとえば昭和の物だったら東京九段の昭和館に行くのがいいのか、トイレットペーパーは紙の博物館にいくのがいいのか。というお現実的に考えております。以前静岡家庭紙工業組合というところに伺ったことがあります。でっかい箱がありまして、広々としたロビーがありまして、そこにちょっとだけガラスのケースがありまして。世界のトイレットペーパーなんかがちよいちょい置かれていた。家のコレクションからしたらしょぼいもんだなと思ひまして。ここに博物館を作ってもらえたら余裕だと思っていたら。業績不振がたたったのか、静岡家庭紙工業組合のビルがどっか売却されてしまいました。トイレットペーパーの行き場がなくなってしまいました。

相沢早苗—「じゃあ、やくさん家のお部屋に。」

やくみつる▶この理事長さんとかなんかやってくれないですかね。かなりの土地持ちと拝見しましたですね。

相沢早苗—「そうですね。ギャラリー鴻で出たら凄いですね。」

会場の方—「例えば小説で人気の小説のキャラクターを漫画にするのは、どういった形でなっているんですか。」

やくみつる▶これはさっきの手法では逃げられないと思いますね。小説家の方達は、もっと自分の著作権に対してシビアです。小説家個人というよりは出版社の編集担当に、こういった話がございまして持つていくべきだと思います、オフィシャルには。実はそれと似たようなケースがあって、私はサラリーマン川柳という川柳の撰者をやっているんですけども。ある歌手の方がサラリーマン川柳を歌に折り込みたい、どうしたらいいでしょうと私の方に話が来たんですね。選考委員をやっておりますので。これちゃんとやらないと後からこじれるとよろしくありませんので。この方は実際これまでも勝手に歌に折り込んでトラブルになったということがあったので、きちんと用心をして話を持って来てくれた。この場合はサラリーマン川柳をやっているのは第一生命という保険会社ですが、ここに直接持つていくのではなくて、必ずこのイベントを主催している広告会社があります。今回の場合は博報堂さんでしたけど。博報堂さんのサラリーマン川柳のご担当の方に実は歌に折り込みたいとこの方がいらっしゃっていると。決してその、俳句を揶揄したりとかマイナスイメージを持たれるような企画ではないので、お話を一度聞いてあげてくれませんか。というように話を持っていきました。ですから小説を元にした漫画を作りたいという時は、まず出版社の方に意図を明確に伝える。これは別に、揶揄したり誹謗したりする性質のものではなくてそのキャラクターを自分の世界の中に拝借して、自分なりの観点で動かしてみたいんだということをおっしゃって見る必要はあると思います。中々編集作家の方がすんなりオーケーを下さるかという結構なハードルが高い問題ではあると思いますけれども、やるのであればちゃんと、手順はふんだ方が良くと思います。ごく身近な連中だけで見るとつだからとか、せいぜい売ってコミケのレベルだからといったことで舐めない方がいいですね。コミケあたりだとどうも相当な認知されていますから。ゲリラ的なものは後々面倒だと思いますね。

会場の方—「ゲームのバージョンとかのパターンもあるんですか。」

やくみつる▶まあ同じ事だと思いますね。まず直接作家なり、キャラクターデザインをした人というよりは出版社であったりゲームの販売会社

であったりというほうに話を通す方が、遠回りなようですがそちらの方が確実だと思いますね。

会場の方—「それは漫画家になってからの話ですか。素人のときはダメ。」

やくみつる▶何か既製の物を使って新たに自分で展開したいというようなものは、別にそれはアマチュア、プロの問題ではないと思います。アマチュアだから許してもらえるかという非常にシビアな方達もいますので。自分なんか何書かれても結構ケロツとしている方なんですけど。それは用心はした方がいいですね。お金が絡んで来ると、ど偉い金額が請求されるようなことなんてなると辛いですからね。ちなみに私の絵は、良く商店街の、平塚の七夕の飾りに自分の絵が使われていたことがありますが。自分なんて笑って嬉しいなと思っちゃいますが。それ、嬉しいなと思う漫画かの方が少ないと思って下さい。ややこしい方が多いと思った方がいいです。

相沢早苗—「じゃあ色々確認して、一つ一つ手順をふんでやっていって下さい。素人の時からがプロへの第一歩だと思います。今ちょっとお話をされた、サラリーマン川柳。本屋さんだともう平積みになっていますよね。その中にやくさんのイラストというか漫画があるんですが、本当にどの川柳もやくさんの絵の中で生き生きと描かれていて、凄く皆さん魅力的に描かれていますよね。」

やくみつる▶今、緑の彼にいうとスタート地点から自分の二十年後三十年後なんてまるで想像がつかないと思いますけど、ひとたびこの業界に入りますとどう転がっていくか分からない面白さっていうのはありますよね。その、スゴクでいうとあがりが見えない。一体途中からどういう仕事になっていくか分からないっていう面白さっていうのは、それを辛いと思う人間もいるかもわからなですけど、それを面白いと思える人間だったらきたほうがいいという気がしますね。分からないですもん。まさか私が川柳の撰者になるかなんて分からないし。

相沢早苗—「長年なさっているんですね、あれも。もし良かったら皆さん、三冊でているますので、お読み頂ければと思います。やっぱり番組もそうですけど、番組が終わってその後の楽屋の話で結構盛り上がりますが、そういう時間をもうけて頂いてありがとうございました。それではよろしいですか、皆さんこの辺でね。やくさん解放させて頂こうかと。今日は時間超過してまでお付き合い頂きまして本当にありがとうございました。やくみつるさんでした。三十分もオーバーしてしまいました。では拍手で送りいたします。やくみつるさんでした。」



※会話をほぼそのまま文章にしており、判りづらい表現がございます。ご了承ください。

予定の1時間を大幅に過ぎてしまいましたが、大変楽しいひと時でした。

今回の講演会は校友会単独主催ではなく、かまた祭実行委員会にもご協力をいただき、在校生、卒業生の他に近所の方々にもご来場いただきました。

ご協力、ご参加いただいた皆様にご場をお借りして感謝いたします。

平成25年度 卒業証書授与式



平成26年3月17日パシフィコ横浜大ホールにて卒業証書授与式が挙行されました。正装に身を包んだ学生たちの晴れやかな表情は、本校で過ごしてきた日々の充実と成長を物語っていました。式典では片柳 鴻理事長、千葉 茂学校長に続き、大田区長 松原 忠義様、JBCCホールディングス株式会社 山田 隆司様、校友会会長 桂田 忠明様から卒業生へ、力強い励ましの祝辞をいただきました。社会に羽ばたく卒業生たちを後押しするような送辞を受けて、学校生活の中で感じた様々な感謝の気持ちを綴った答辞に、会場全体が温かい拍手に包まれました。



第48回 かまた祭 テーマは「共創 ～みんなの力で祭りをつくろう～」



平成25年11月2日(金)、3日(土)に第48回かまた祭が開催されました。今回のテーマは「共創」。このテーマには大学生、専門学校生、その他協力していただいた方々と共に一丸となって創り、共に感謝されるかまた祭にしようという想いを込められています。開会式では全国レベルである東京実業高校のマーチングバンド部が登場。理事長、学校長、地元自治会長、校友会会長らご来賓の方々の入場行進を先導してくれました。今回のかまた祭は前年度に引き続き、東京工科大学と共同開催し、実行委員も専門学校と大学から選出されました。専門学校では昨年好評だった「1年生の将来宣言」や各カレッジの「教育成果発表」をギャラリー鶴で行い、多くの保護者の方々にご来場いただけました。また昨年漁船を被災地へお贈りした東日本大震災復興支援では、今年が支援開始から3年目の最終年という事で被災地へ体育用具をお贈りする募金を実施。その他に長野県人会、大田区のブースなど色々な企画を実施するなど盛り沢山の内容となりました。各カレッジ、学科ともにそれぞれの特色を活かした内容を企画、多くのアーティスト、芸人の方々が登場し、大いに盛り上がった内容となりました。



平成26年度 入学式



平成26年4月10日11:00より「平成26年度 日本工学院専門学校」の入学式が日本武道館にて挙行されました。今年にご来賓として俳優の石原良純様、東京商工会議所大田支部会長で大田区に本社を構える株式会社金羊社 代表取締役社長 浅野 健様をお二人をお迎えしてご挨拶を頂きました。理事長、学校長の祝辞に続くお二人の有意義なお話、新入生はじめ保護者の皆様は感動の面持ちで聞き入っていました。

入学式会場の日本武道館は皇居外苑の北の丸公園にあり、新入生たちの大勢が武道館や桜の花をバックに記念撮影を行っていました。そうしたみんなの顔は、これから始まる学生生活に期待を膨らませていました。

第45回 体育祭 テーマは「全力全開 ～舞～」



前日の雨も夕方には上がり、突き抜けるような青空で迎えた5月22日(木)午前10時、大井ふ頭海浜公園にて第45回体育祭の幕が切って落とされました。開会宣言の後、理事長先生、校長先生よりご挨拶をいただき、チアリーディングチームによるパフォーマンスの披露と続き、準備体操で体をほぐしたところでサプライズゲストが登場。会場の盛り上がりはMaxに達しました。その興奮が冷めやらぬうちに最初の競技、全校生徒による「〇×クイズ」が校長先生からの第一問目で開始されました。順調にスタートしたかに見えた体育祭ですが、第一競技の途中から俄に雲が広がりだし、勝者が決定した直後からポツポツ雨が降り始めたかと思うと瞬間に雷を伴った大雨となり、1時間前からは想像もできないような状況へと一変してしまいました。暫く雲が去るのを待っていましたが、一向に収まる気配を見せない雷鳴に、学生の安全を第一と考え中止の決断をすることになってしまいました。競技参加を楽しみにしていた学生はもちろん、数月前から競技進行、表彰、用具、庶務に分かれ、連日遅くまで準備に奔走していた学生運営委員会のメンバーととも大変残念な結果となってしまいました。しかし、体育祭に向け全力全開で取組んだ経験は今後の人生にとってきっとプラスになるはずです。これを糧に在校期生は来年度の体育祭で、卒業期生は社会に出てからさらに大きく舞ってくれることでしょう。



★ 同窓会のお知らせ ★

「マンガ・アニメーション科学科設置15周年記念」同窓会

夏の日差しが照りつける時節ですが、卒業生の皆様はお変わりなくお過ごしでしょうか。本年度より、非常勤講師(キャラクターデザインコース)から教員になりました横濱です。この場をお借りいたしまして、皆様へご報告とご挨拶を申し上げます。

さて、マンガ・アニメーション科(旧 総合アニメーション科)では学科設置15周年の同窓会を下記の要領で開催いたします。前回の同窓会の開催よりすでに5年が経っておりますので、この機会に懐かしい同期の友人や恩師の先生方との旧交を温めるべく、ふるってご参加ください。私も、皆様のご参加を心よりお待ちしております。



日時：平成26年11月29日(土)
会場：日本工学院専門学校 3号館12階
時間：16時30分～19時00分 ※受付開始は16:00より

「同窓会の詳細情報、または参加登録はコチラへ」

URL https://docs.google.com/forms/d/1CVJpJ5gq0Afhegtje7Q2NbCOEhRmauAtb_Zh7JW16rc/viewform

★ コンサート・イベント科20周年同窓会

20周年を迎えましたコンサート・イベント科の同窓会を下記の日程にて実施予定しております。1期生の方からこの3月に卒業しました19期生まで、皆様のご参加をお待ちしております。詳しくはコンサート・イベント科20周年Facebookページでご確認ください。

平成26年11月1日(土)

2号館6階デジタルオープンスタジオにて20周年ライブを開催!

その後、2号館を使用して同窓会を行います。

※時間についてはライブ終了後となり、ライブ開始時間は下記HPを参考にしてください。

★ 蒲田キャンパス公式キャラクター募集

応募資格は全てのカレッジの「在校生」「卒業生」「教職員」です。ふるってご参加ください。

募集要項と応募用紙につきましてはコンサート・イベント科ブログに掲載されますのでそちらからダウンロードをしてください。

URL <https://www.facebook.com/#!/concertstaff?fref=ts>

キャリアサポートセンターからの報告



キャリアサポートセンターでは、就職・デビュー・進学とあらゆる進路先のサポートをしています。

求人募集は、上向き傾向の様子ですが、厳選採用は変わりありません。学生にとっては就職活動も社会人になるための大きな扉であり、緊張しながら開いていこうとしています。その様な中、各方面で諸先輩方が活躍されているおかげで、求人を頂くことができ感謝しております。

当センターでは、業界ごとの「合同企業説明会」、企業ごとの「個別企業説明会」を開催しています。諸先輩方の活躍をお聞きするたびに、社会人になる厳しさと共に生き生きと活躍されるお話しをお聞きし、卒業後の進路に向けて夢を膨らませています。今後ともご参加をお待ちしております。

また、地元就職の状況や求人などございましたら、ご一報いただきたくお願いいたします。学内行事等でご来校されたときは、3号館1階のキャリアサポートセンターに、ぜひお立ち寄りいただき、情報交換などお待ちしております。よろしくお願いたします。

■ 平成26年度 キャリアサポートセンター行事日程表(一部掲載)

	開催予定日	期間	行事名	参加予定	場所
1	平成26年3月7日(金) 実施済み	1日間	合同企業説明会	53社	3号館12階 学生ラウンジ
2	平成26年4月16日(水)~18日(金) 実施済み	3日間	春季合同企業説明会	381社	大田区産業プラザPIO
3	平成26年6月19日(木) 実施済み	1日間	大田区企業合同説明会	26社	3号館12階 学生ラウンジ
4	平成26年9月下旬	1日間	ゲーム・CG合同品評会	未定	3号館教室
5	平成26年9月27日(土)	1日間	劇団・プロダクション合同説明会	未定	3号館12階 学生ラウンジ
6	平成26年10月17日(金)	1日間	秋季合同企業説明会	未定	東京都立産業貿易センター
7	平成26年10月20日(月)	1日間	音楽産業系企業限定セミナー	未定	中野サンプラザ
8	平成26年11月20日(木)	1日間	医療機関合同説明会	未定	学内

● 求人情報ご提供のお願い ●

当校後輩学生へのご求人、業界へのアルバイト情報が有りましたら、下記までご連絡ください。尚、お問い合わせの際には、当校のOB&OGである旨をお伝えください。

お問い合わせ先

日本工学院専門学校

教育・学生支援部 キャリアサポートセンター担当

TEL:03-3732-5610(直通)

FAX:03-3732-1123

E-Mail: syusyoku@neec.ac.jp

Webからの直接求人申込(新卒対象のみ)は
 当校HPより「採用企業の皆様へ」のバナーよりご入力ください。

平成26年3月 教職員退職者報告

永年ご指導くださいました次の先生方が、定年または一身上のご都合により退職されましたのでお知らせいたします。

氏名	所属等(退職時)
牧迫 美穂子	蒲田校 教育・学生支援部
齋藤 貴幸	蒲田校 ITカレッジ
大竹 幸輔	蒲田校 デザインカレッジ
半田 伸明	蒲田校 テクノロジーカレッジ
今井 晴美	蒲田校 クリエイターズカレッジ
石橋 梢	蒲田校 ITカレッジ
飛塚 浩幸	八王子校 デザインカレッジ
井上 豊	八王子校 テクノロジーカレッジ
濱砂 英一	蒲田校 医療カレッジ
落合 正吉	蒲田校 教育・学生支援部
手塚 亮子	蒲田校 医療カレッジ
澤口 奨吾	蒲田校 クリエイターズカレッジ
田仲 千鶴	東京工科大学業務課
稲見 衛	東京工科大学事務局
真寿田 三葉	東京工科大学 理学療法学科
水島 岩徳	東京工科大学 臨床工学科
中山 達雄	東京工科大学学務課



天野 正明

蒲田校 テクノロジーカレッジ

勤続40年、無事定年を迎えることができました。今後は非常勤講師として頑張ります。



猪口 真美

蒲田校 教育・学生支援部

学校には長い間お世話になりました。これからは自然に親しんでいきたいと思います。



国重 雅彦

図書館

卒業生の皆様、お元気ですか。私はこれから第2の人生です。たまには連絡ください!! よろしく!



島田 誠治

東京工科大学
キャリアサポートセンター

ご縁で再就職ができ、今後は先輩諸氏との親睦を深めながら人生の厚みを増していきたい。

写真でみる 校舎の変遷

昭和22年(1947年)5月、理事長 片柳 鴻により、大田区女塚3丁目(現在西蒲田5丁目)に絵画、洋裁教育を目的に創設された「創美学園」。以来66年間の歴史を誇る校舎の変遷をたどりました。



昭和22年

創立時の校舎



昭和24年

増築校舎が完成



昭和28年

木造校舎が完成



昭和30年

増築した木造モルタル2階建て校舎



昭和33年

1号館が完成



昭和40年

2号館が完成



昭和44年

3号館が完成



昭和45年

5号館が完成



昭和47年

6号館(現在の5号館)が完成



昭和54年

7号館が完成



昭和55年

6号館(旧5号館)が完成



平成13年

8号館が完成



平成17年

アニメデザイン館(6号館を増築)が完成



平成20年

平成21年



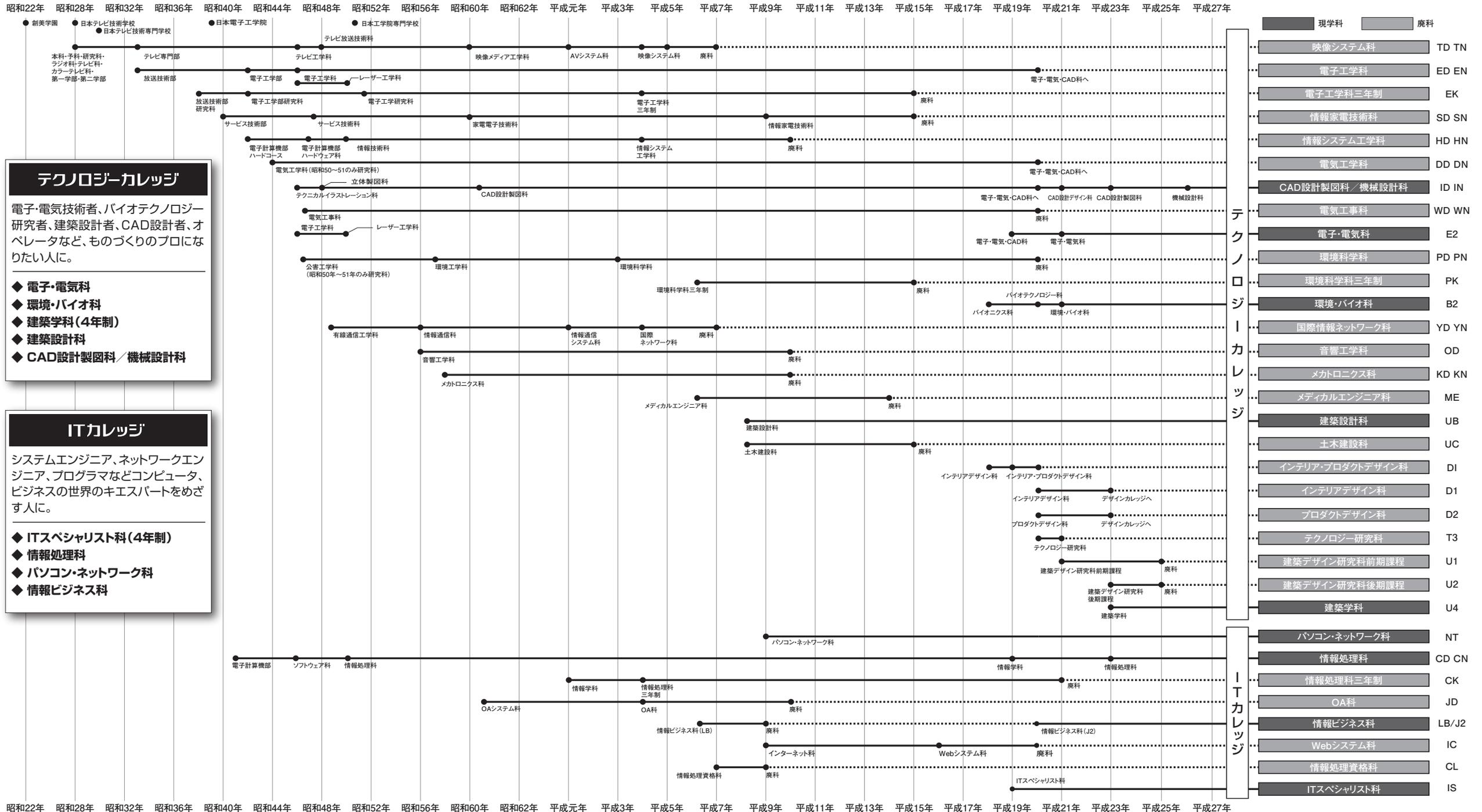
平成26年

平成26年8月現在
地下に体育館を備えた新校舎建設中!
平成28年12月完成予定です!!

蒲田校 学科の変遷

実践的なカリキュラムで学べば、
あなたの未来は無敵大。
あらゆる業界をカバーする多彩な学科群。

日本工学院(蒲田)には、それぞれに高い専門性を備えた6つのカレッジのもと、個々の分野で真に
社会で求められているプロを養成するための多彩な学科がある。学問のための学問ではなく、職業人
として必要な教養とスキルを磨くために練り上げられた実践的なカリキュラム。それらは、日本工学院
という1つのキャンパスに集うことでまったく新しいコラボレーションを生む可能性をも秘めている。



テクノロジーカレッジ

電子・電気技術者、バイオテクノロジー研究者、建築設計者、CAD設計者、オペレータなど、ものづくりのプロになりたい人に。

- ◆ 電子・電気科
- ◆ 環境・バイオ科
- ◆ 建築学科(4年制)
- ◆ 建築設計科
- ◆ CAD設計製図科/機械設計科

ITカレッジ

システムエンジニア、ネットワークエンジニア、プログラマなどコンピュータ、ビジネスの世界のキエスパートをめざす人に。

- ◆ ITスペシャリスト科(4年制)
- ◆ 情報処理科
- ◆ パソコン・ネットワーク科
- ◆ 情報ビジネス科

昭和22年 昭和28年 昭和32年 昭和36年 昭和40年 昭和44年 昭和48年 昭和52年 昭和56年 昭和60年 昭和62年 平成元年 平成3年 平成5年 平成7年 平成9年 平成11年 平成13年 平成15年 平成17年 平成19年 平成21年 平成23年 平成25年 平成27年

■ 現学科 ■ 廃科

クリエイターズカレッジ

ゲームやアニメ、CG、テレビや映画で活躍するディレクターや声優・俳優、デザイナーなどをめざしたい人に。

- ◆ 放送・映画科
- ◆ 声優・俳優科
- ◆ マンガ・アニメーション科四年制
- ◆ マンガ・アニメーション科
- ◆ ゲームクリエイター科四年制
- ◆ ゲームクリエイター科
- ◆ CGクリエイター科/CG映像科
- ◆ クリエイティブラボ(4年制)

デザインカレッジ

デザイン力、キャリアデザイン、人間形成の3要素をバランスよく学び、ワンランク上のデザイナーをめざす人に。

- ◆ グラフィックデザイン科
- ◆ インテリアデザイン科
- ◆ プロダクトデザイン科

ミュージックカレッジ

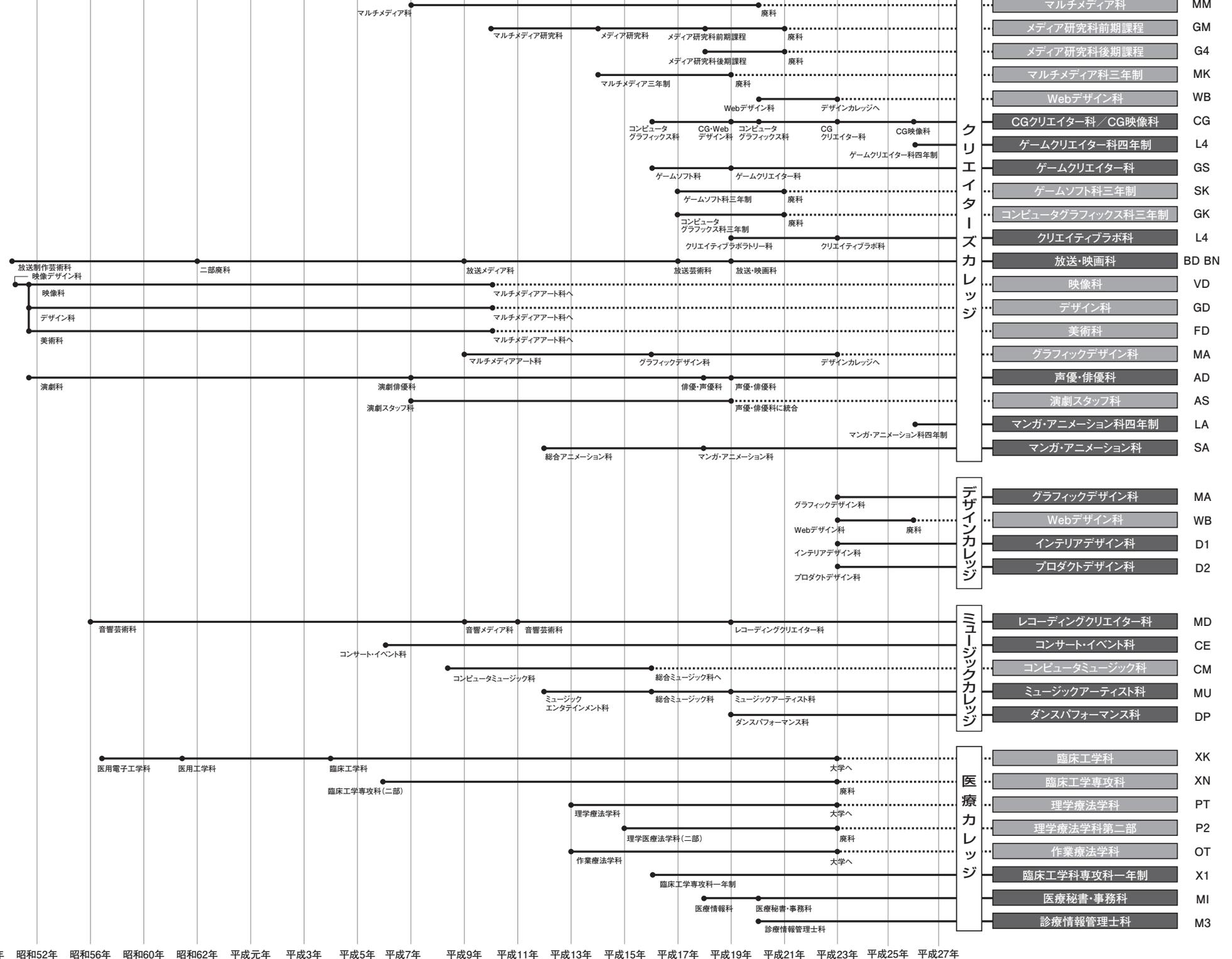
ヴォーカリスト、ミュージシャン、コンサートスタッフ、レコーディングエンジニア、ダンサーなど、音楽の世界でプロになりたい人に。

- ◆ ミュージックアーティスト科
- ◆ コンサート・イベント科
- ◆ レコーディングクリエイター科
- ◆ ダンスパフォーマンス科

医療カレッジ

臨床工学技士、医療秘書、診療情報管理士など、医療分野のスペシャリストをめざしている人に。

- ◆ 臨床工学専攻科一年制
- ◆ 医療秘書・事務科
- ◆ 診療情報管理士科(3年制)



昭和22年 昭和28年 昭和32年 昭和36年 昭和40年 昭和44年 昭和48年 昭和52年 昭和56年 昭和60年 昭和62年 平成元年 平成3年 平成5年 平成7年 平成9年 平成11年 平成13年 平成15年 平成17年 平成19年 平成21年 平成23年 平成25年 平成27年



集まっています!

校友会ホームページ上の「校友会全国支部ブログ」および「同窓会等のお知らせ」で、各支部の活動報告、懇親会・親睦会報告、同窓会報告などの記事が掲載されておりますのでご覧ください。

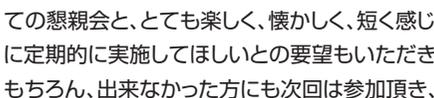
校友会ホームページのアドレス <http://www.kouyukai.net>

「電子工学」「電気工学」同窓会報告

日時：平成25年10月12日(土) 14:30～ 場所：日本工学院専門学校



平成25年10月12日(土)に第一回電子工学・第二回電気工学同窓会を開催いたしました。電子工学においては学科設立55年目にして初、電気工学は平成18年以来7年振りの同窓会ということもあり、一体何人位の卒業生に参加して頂けるか不安でしたが、当日は、84歳から20歳まで、世代を超えた総勢43名の卒業生にお集まり頂き、とても盛大な会となりました。また、卒業生だけでなく、大谷先生、秋野先生、山本先生、菅原先生、只埜先生という歴任の先生方にもお越し頂き、旧友のみならず、恩師とも旧交を温められたことと思います。会は二部構成で行われ、第一部は31005階段教室において、学院・学科の近況報告、教員紹介、大谷先生の学科創設時のお話、校友会からのお願い。第二部は12階学生ラウンジへ会場を移しての懇親会と、とても楽しく、懐かしく、短く感じられる3時間半でした。今回ご参加いただいた卒業生からはもっと頻繁に定期的実施してほしいとの要望もいただき、第三回、第四回と続けていきたいと考えています。今回参加した方はもちろん、出来なかった方にも次回は参加頂き、さらに盛大な会にしたいと思います。



校友会「群馬県支部懇親会」報告

日時：平成25年12月7日(土) 17:00～19:30 場所：太田市「2nd(セカンド)」



太田での開催は群馬県支部では初めてであった。山口支部長の挨拶と校友会事務局の挨拶に続いて参加者の自己紹介と近況報告が行われた。「会社をリタイア後、塾で数学を教えている」「フェイスブックつながりでこの会に参加した」「以前はセキュリティ関係の仕事をしていて、今は農業をしている」「校友会は設立の時に参加した」「太田で開催されるのでぜひ参加したいと思った」「学生時代は新聞配達をしながら勉強していた」「60才過ぎて中型バイクの免許を取得した」「呑川が氾濫して大変だった」「仕事と学歴」等々様々な話題が出された。楽しく談笑した後、次回の支部会員の集いでの再会を期してお開きとした。

校友会「近畿・中国・四国地区支部長会議」が開催されました!

日時：平成26年2月15日(土) 場所：道後温泉大和屋本店



今回幹事は愛媛県支部の担当で、道後温泉大和屋本店で開催されました。会議は12支部の支部長、副支部長の17名と事務局の猪口先生の18名の出席で開催されました。中沢幹事の司会進行で、白石地区幹事長の挨拶、出席者の自己紹介に続いて猪口先生が学校及び事務局からの報告をされました。続いて各支部の報告・提案事項などを行い、最後に次回開催地を香川県に決定して終わりました。会議終了後、温泉で一風呂浴びて疲れを癒し18時30分から懇親会が始まりました。懇親会ではそれぞれ個別の情報交換や久しぶりの再会で親交を暖めました。

翌日、希望者には松山市内の坂の上の雲ミュージアムや松山城の見物が行われました。最後に美味しい鯛茶漬の昼食を賞味して解散となりました。

校友会「北海道・東北地区支部長会議」を宮城県で開催!

日時：平成26年3月1日(土) 15:00～ 場所：宮城県大崎市「鳴子ホテル」



平成26年3月1日(土)午後3時より「北海道・東北地区支部長会議」を宮城県大崎市の鳴子ホテルで開催しました。

地区幹事の阿部岩手県支部長の司会により開会し、始めに地区幹事長の野里青森県支部長が挨拶。次に、学校を代表して教育・学生支援部の只埜次長が挨拶に立ち、学校としての出来事などを報告。引き続き、校友会事務局の猪口氏が校友会としての出来事を報告しました。ここで、参加者全員を紹介し、各支部長から支部の報告が行われた。さらに、提案・要望など活発な意見が交換されました。

来年の支部長会議は秋田県で開催されることが決定し、会議が終わりました。その後、夕食を食べながら、情報交換が行われました。

今年も「津山会員の集い」を開催!

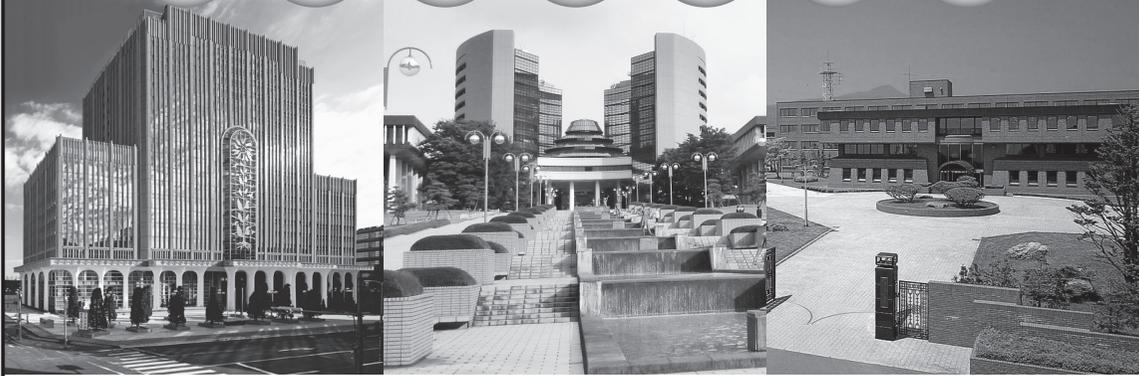
日時：平成26年4月9日(水) 11:30～15:30 場所：津山鶴山ホテル



平成26年4月9日、花見を兼ねた「津山会員の集い」を津山鶴山ホテルで開催しました。

岡山県支部では支部活動20周年記念事業を契機として県北部の会員の交流を目的に、毎年花見時期にあわせて会員の集いを開催しています。今回で6回目の今年の天気は快晴に恵まれ絶好の花見日和となりました。まずは全員津山鶴山ホテルで懇親会を行いました。参加者は7名、初参加の杉本さんが加わり平均年齢が少し下がりました。若い杉本さんもすぐに皆さんとけ込み和気あいあいの2時間があっという間に過ぎました。懇親会の後、中之町の作州城東屋敷を通って、津山城址の鶴山公園で桜を満喫しました。

入 学 金 免 除 制 度



学校法人片柳学園の設置する学校(日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校、日本工学院北海道専門学校、東京工科大学)卒業生子女、兄弟姉妹および孫又は在校生の兄弟姉妹が入学する際に入学金を免除する制度です。

該当する方は以下のいずれかの方法で用紙を取り寄せ、出願時に出願書類と共に提出してください。

兄弟姉妹同時入学の場合は、一人分の適用となりますので入学後に教育・学生支援部へ申請し、手続を行ってください。

※「入学金免除申請書」の受付は、平成27年3月31日までとします。

「各種資料請求用紙」にて請求

WEB

入学募集要項の「各種資料請求用紙」にて請求
↓
教育・学生支援部より「入学金免除請求書」を送付
↓
必要事項を記入・押印
↓
出願書類と共に教育・学生支援部へ郵送

日本工学院専門学校ホームページ(www.neec.ac.jp)
↓
画面右側、「卒業生のみなさんへ」
↓
入学金免除制度説明ホームページ(www.neec.ac.jp/graduate/ob.html)
PDFファイルにて「入学金免除申請書」をダウンロード
↓
必要事項を記入・押印
↓
出願書類と共に教育・学生支援部へ郵送



かまた題字作家紹介



本校校友会誌の表紙題字は人間国宝の芹澤銑介(セリザワ ケイスケ)先生の筆によるものです。先生は本校1号館、6号館東側に流れる呑川の上流約150mに架かる馬引橋近くに、昭和9年から居を構えられ、爾来50年にわたって蒲田の地で型絵染の創作活動に没頭されておられました。昭和42年(1967年)10月発行の日本電子工学院研友会(校友会の前身の名称)会誌第2号以来表紙を飾っています。

芹澤銑介先生 略歴

- 明治28年(1895) 静岡市に生まれる。
- 大正5年(1916) 東京高等工業学校図案科卒業。
- 大正14年(1926) 朝鮮の旅に出て京城及び慶州仏国を訪れる。往路、船中にて「大調和」誌の口絵及び柳宗悦氏の「工芸の道」に感動、生涯の一転機となる。
- 昭和3年(1928) 沖縄紅型に感銘を受ける。
- 昭和6年(1931) 雑誌「工芸」が創刊され、その表紙を一年間受持つ。その型染布表紙は装幀の仕事への端緒となる。
- 昭和7年(1932) 国画会会員・川端康成「雪国」装幀。
- 昭和9年(1934) 東京蒲田町に移る。初めて仕事場に恵まれる。
- 昭和13年(1938) 柳宗悦氏他民芸同人と共に沖縄に渡り紅型の技を受ける。
- 昭和20年(1945) 型染めカレンダー創始。
- 昭和24年(1949) 女子美術大学教授となる。
- 昭和31年(1956) 型絵染で重要無形文化財保持者(人間国宝)の指定を受ける。
- 昭和38年(1963) 大原美術館工芸館第二期の棟方・芹澤両館落成。
- 昭和41年(1966) スペインのバルセロナにあるカタルーニャ美術館を訪れ、永年の念願を果す。その程復途上、エジプト、トルコおよび欧州各地を巡遊。紫綬褒章を受ける。
- 昭和51年(1976) 文化功労者となる。フランスの国立グラン・パレ美術館において「芹澤介展」開催。
- 昭和58年(1983) フランス政府から芸術功労勲章を贈られる。
- 昭和59年(1984) 4月5日死去(享年89歳)。

個人情報保護についての取組み

日本工学院専門学校校友会(以下校友会)では、個人情報保護法に基づき会員の個人情報の保護について、以下の取組みを実施しております。

- 校友会が保有する個人情報の適正な取扱いをするために、個人情報の保護に関する規程を定めました。
- 会員の個人情報は、必要な情報のみを適正かつ公正な手段によって収集させていただいております。得られた個人情報は、校友会誌「かまた」の発送ならびに学校法人片柳学園日本工学院専門学校および姉妹校(以下学校)からのお知らせを送信する際に利用いたします。また、会員に対する校友会窓口(koyukai@neec.ac.jp)を明示し、会員からの連絡が速やかに受けられるように致します。
- 校友会では、会員よりいただいた個人情報を適切に管理し、会員本人の同意がない限り、校友会以外の第三者に対する個人情報の提供は致しません。
- 個人情報の取扱いを含む業務を委託する場合は、受託者との間で契約により個人情報の再提供・漏洩などをしないよう義務づけを致します。
- 会員が自己の個人情報に関して、開示・修正・変更等を希望される場合には、校友会窓口(koyukai@neec.ac.jp)までご連絡いただければ、迅速に対応致します。
- 校友会では、上記の項目について、見直し・改善の必要が発生した場合には、適宜対応してまいります。

先生から一言 学科から卒業生へ

声優・俳優科

卒業生のみなさんお元気ですか?旧演劇科~演劇俳優科~俳優・声優科~声優・俳優科は、次年度入学生40期より声優・演劇科と久しぶりに私たちの幹である「演劇」の名称を科名に戻すこととなります。また同時に演劇スタッフ科も復活します!

教員の顔ぶれもだいぶ変わりました。卒業生も先生として戻ってきてくれました。神谷明先生はじめ非常勤講師の方々の指導のもと、現在の学生たちは懸命にやっていますので、是非応援してやってください。皆様のご活躍お祈り申し上げます。



【教職員】後列左から ●木部 祥太 ●吉村 智樹 ●村田 鉄之 ●山本 浩二
●鶴巻 一弘 ●高沢 敦博 ●平野 真悟
前列左から ●宮下 明日香 ●寺嶋 陽子 ●多田 美紀 ●佐々木 彩

放送・映画科

放送制作芸術科として誕生して早40年。現放送・映画科の一年生は40期生になります。第一期生から知る脇先生は現在学科を離れ八王子校のキャリアサポートセンターで活躍中。もしお近くにお越しの際は、お立ち寄りください。

昨年新スタジオが新3号館の16階に完成し、放送の教育もだいぶ様変わりました。さらに学生の作品制作に力を入れていきますので、YouTube、学科ブログなどでチェックしてください。

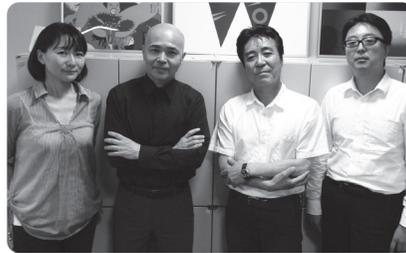


【教職員】左から ●土屋 裕重 ●高沢 敦博 ●上遠野 順子
●上原 武夫(2期卒) ●笹本 崇(18期卒)
●宮川 佳己 ●山田 素子

グラフィックデザイン科

みなさんお元気ですか?なんと私たちの学科は40年目を迎えています。映像・デザイン・美術科としてスタートし、映・デ・美の3学科時代。学科を再統合したマルチメディアアート科時代そしてグラフィックデザイン科(グラフィック、イラスト各コース)と時代とともに変化してきました。一番大きな変化は三年制に移行したことでしょうか。でも、いい作品づくりに全力投球の姿勢は昔も今も変わっていません。近年は企業課題(ロッテやアシックスなど)やインターンシップ、地域(蒲田)への貢献など学外の活動も活発に行っています。

わが学科の「生き字引」秋山先生もまだまだ元気ですよ。学科も60年目指して頑張ります(笑)



【教職員】左から ●山本 佳子 ●鶴田 勇一
●秋山 潔 ●川口 貴弘(新任)

情報処理科



【教職員】後列左から ●西山 睦 ●小高 一 ●下川 洋一
前列左から ●瀬田 義雄 ●鈴木 睦男
●諸岡 瑞香 ●兒島 正広

情報処理科の卒業生の皆さん、お元気ですか?

今年59期の入学生を迎え、情報処理科の教員一同もますます頑張っています。技術の進歩が激しい分野でもあり、社会のニーズに対応すべく日々努力の毎日です。

これに伴い、情報処理科は学科内にコースを設置しており、システム開発・モバイルアプリ開発・システム運用の3コース体制で運営しております。特に、新設の「モバイルアプリ開発コース」では、スマートフォンやタブレットといったモバイルデバイスやクラウドを活用したシステム開発の技術者育成を目指します。在校生たちは、先輩方と共に社会で活躍することを目標に、技術の修得・資格の取得・就職の実現のために日々励んでいます。

卒業生の皆さんも、日々の業務でご多忙とは存じますが、お身体はくれぐれも大切にしてください。皆様のご活躍を蒲田よりお祈りいたします。

蒲田キャンパスの3号館は新校舎となり、日々の授業に取り組んでいます。

コンサート・イベント科

コンサート・イベント科の卒業生の皆様、変わらず音楽を楽しんでいますでしょうか?

様々なメディアで、スタッフクレジットの中にお名前を見つけては、皆様のご活躍を陰ながら嬉しく思っております。今年度は2年生が20期ということで、20回目の卒業生を送り出す事になります。数々の変遷を経ていますが、変わらずイベント、ライブ三昧で忙しい日々を学生とともに送っております。CMやHPでもご確認頂けますが、キャンパス周りは大きく変わっております。6期生の途中から出来た「Digital Open Studio」その前の方々にとっては「2号館ホール」という場所は、訪れていただければ、すぐにでも当時は思い出して頂けるはず。学科の実習などに出演してもらったアーティストでもビッグネームがいくつも出ました。古くはRIZE、BEAT CRUSADERS、その後もマキシマム ザ ホルモン、AAA、Do As Infinity、最近では特にSEKAI NO OWARI、SAKANAMON、Silent Sirenなどなど。これも皆様のお陰で築けた歴史の一部です。在学中に実習で関わったアーティストと、実際にお仕事でも携わっている方々も多く出て来ていて、そういった人達も今の学生にとっては良い目標となっています。

来年の2月には20周年記念として、2007年から実施しているミュージックカレッジ最大のイベント「Real Dreams」(東京ドームシティーホール)があります。また、かまた祭では卒業生が集まれる「同窓会」を予定しております。その折には改めて御案内いたしますが、皆様お誘い合わせの上、お集まり頂ければと思います。学科のOB、OGの情報交換の場として、また、よき思い出を語る場として、楽しみにお待ちしております。

●コンサート・イベント科卒業生facebookページ <https://www.facebook.com/#!/concertstaff?fref=ts>
●日本工学院ミュージックカレッジfacebookページ <https://www.facebook.com/#!/nec.music?fref=ts>



【教職員】後列左から ●三山 慶人 ●森永 直樹 ●中里 哲也 ●山下 顕治
前列左から ●田中 朋子 ●助川 香織 ●吉野 雄一郎 ●藤井 麦彦 ●仲本 達哉

建築設計科

卒業生の皆さんお元気ですか?卒業生の皆さんが社会で活躍されていることで、後輩たちも頑張っております。卒業生の頑張り、活躍なくしては、学科及び母校の発展はあり得ません。

さて、建築設計科(2年制)は、今春で20期生になります。20周年を記念しまして、平成27年度には同窓会等のイベントを計画し、ご案内させて頂きます。是非、同期などのお友達をお誘い合わせの上、ご参加をお待ち申し上げます。学園も時代の共に変化、発展しております。建築学科(4年制)が創設されて、今春で5期生となります。20階建ての新しい3号館ができ、さらには平成28年夏には新しい施設として、体育館他が完成予定です。東北の震災復興、東京オリンピックなどもあり、人材不足が騒がれております。求人情報等は母校へご連絡ください。是非、母校の発展、後輩たちの頑張りを見にキャンパスへお越しください。



【教職員】左下段から時計まわりにて
●井口 純 ●山田 俊之 ●岩田 明士 ●清水 憲一
●山田 盛久 ●松村 哲志 ●赤石 辰夫

臨床工学科 / 臨床工学専攻科(夜間課程) / 臨床工学専攻科一年制

臨床工学科、臨床工学専攻科(夜間課程)、臨床工学専攻科一年制課程の卒業生の皆様お元気ですか?

約3000名の卒業生を社会に送り出した臨床工学科(3年制課程)、臨床工学専攻科(夜間課程)は平成24年に東京工科大学医療保健学部臨床工学科へ移行し、専門学校では臨床工学専攻科一年制課程での運営をしております。

そんな臨床工学専攻科一年制課程も今年で11年目を迎えました。平成22年に新校舎が完成し、教員室は新3号館9F、教室・実習室は新3号館5Fに移動となりました。学生たちは1年間という非常に短い期間の中で毎日多忙な日々を過ごしていますが、国家試験合格率は95%台と工学院の伝統はしっかりと専攻科課程へ受け継いでいます。

蒲田近くにお越しの際は、新たになった母校をぜひ見に来てください。



【教職員】左から ●大塚 勝哉 ●藤原 太郎 ●森田 秀之 ●丸下 洋一



～会員近況メッセージ～ お元気ですか？

全国から、海外からこの1年間に、校友会事務局に届いた会員の皆さんの近況報告。

思わぬ名前を見つけて、懐かしい顔や声が思い浮かんだり、その元気そうな様子にほっと胸をなでおろしたり・・・。

このコーナーが、そのような温かい出会いや思いを多くの皆さんにお届けできたら幸いです。なお、誌面の都合で掲載できなかったお便りもありましたことをおわびいたします。

氏名(旧姓) 学科/期 勤務先 住所(都道府県)の順で表示しています。 [順不同]

小林 文夫 電気工事科 第6期生
(株)ジャパンディスプレイ石川工場 石川県

現在(株)ジャパンディスプレイ石川工場に勤務中。主にスマートホン用の液晶パネルの製造しています。

塚本 基之 情報処理科(一年制) 第29期生
静岡県

最初はソフト開発の仕事につき、その後OA機器の営業をして、今は自宅店舗で「カレーハウスJAZZ」という飲食店を1人で17年間続けています。静岡市に来たら寄って下さい。

前田 安緒 電子工学部 第20期生
静岡県

静岡科学館へくるでボランティアをしています。科学のおもちゃなどを一緒に作る仕事をしています。

落合 知司 立体製図科 第5期生
静岡県

今年から本格的にOCHIAIファームを始めて無農薬の野菜にチャレンジしています。本気の野菜を作っています。

甲斐 正純 放送制作芸術科 第3期生
静岡県

35年マスコミに従事しましたが早期退職し、今第二の人生をタクシードライバーとしてガンバっています。



飯塚 宏 臨床工学科 第16期生
岡村記念病院 静岡県

卒業して今の職場でもある循環器専門病院の岡村記念病院に就職して14日目になります。職場の中には工学院の後輩もいたりしてプロとしてやりがいをもってさせていただいています。

鈴木 敦 サービス技術科 第13期生
(株)伊豆電業社 静岡県

伊東市内にて、電気工事会社(株)伊豆電業社代表を21年間経営しております。60才となり、後進に道を譲りたいと考慮中です。

松田 博 研究科 第10期生
静岡県

江戸切子の作家として製作活動をしています。(Glass Studio Matsuda)小田原駅前のアプリのビル内に作品を置いてあります。

須崎 繁一 電子工学研究科 第7期生
静岡県

昭和45年に卒業。担任の平尾先生の薦めで東芝機材沼津事業所に勤務、その後静岡県内ケーブルテレビ会社に勤め65歳の定年をむかえた今年6月に退職しました。電子電波一筋に勤められたのは諸先生方のご指導あっての事です。20期安藤先生の日焼けされたお顔。苦虫を噛み潰した表情の7期研究科平尾先生のお元気な姿などと一緒に44年の歳月を振り返っております。

伊奈 麻衣子 演劇俳優科 第28期生
静岡県

演劇とは無関係な仕事をしてきましたが、来年は結婚してるかもしれません。

栗原 功 情報処理科 第22期生
(株)五健整骨院 静岡県

鍼灸あんま・マッサージ指圧師の資格を取得し、(株)五健整骨院にて務めております。



名波 るみ子(旧姓：池田) 美術科 第5期生
静岡県

卒業してから30年以上なのに、いつも校友会誌をありがとうございます。とても懐かしくて、学生だった頃を思い出します。今はダンスのインストラクターで子供～大人まで、5つの教室を指導しています。

赤嶺 維栄 音響工学科 第5期生
沖縄県

昨年6月に自己技術を高める為に転職をしました。40代後半でもチャンスと気持があれば夢に向かって進む事ができる事がわかりました。これからもよろしくお願ひします。

町田 宗徳 放送技術部 第13期生
沖縄県

2011年の地上アナログTV放送停波後のVHF Hiバンドの空き領域を利用して行われている携帯電話向けの放送NOTTVのメンテナンスをしています。

仲井間 宗邦 電子工学科 第45期生
沖縄県

浦添市牧港でソフトウェア開発の会社を運営し、社員50超えました。順調に社業拡大中です。

辻野 信作 電子工学部 第22期生
沖縄県

総務省沖縄県テレビ受信支援センターの業務を終了し、のんびりした生活をしています。校友会のお陰で40年ぶりに東京で逢うことができました。ありがとうございました。

高橋 浩之 公害工学科 第9期生
カンデン水島産業(株) 岡山県

今年3月よりカンデン水島産業(株)に出向しています。以前の職場(品質管理部)より気が楽になりました。のびのびやっています。昨年10月に結婚し、今年9月に子供が生まれる予定です。

高橋 巖 公害工学科 第9期生
山形県

大震災から、会社の勤務体制変更になり、夜勤専属になり2年半ですが、やっぱり夜は眠いです。

佐藤 敏和 電子工学科 第32期生
山形県

定年を1年後にして、第二の人生の準備中です。

中西 盛磨 情報技術科 第22期生
岡山県

地元でパソコン修理、販売、電気関係のなんでも屋をやっています。インターネットができてから田舎でも部品の入手ができるので仕事もやりやすいです。技術があると不景気でも強いですね。



井垣 武彦 放送技術部 研究科 第1期生
日本民放クラブ岡山支部 岡山県

山陽放送(株)退職後、日本民放クラブ岡山支部で活動しています。

瀧本 喜八郎 電子工学部 第25期生
KBS瀬戸内海放送 岡山県

KBS瀬戸内海放送の津山駐在記者としてがんばっております。



松崎 日出昭 情報処理科 第16期生
広島市農業協同組合 広島県

広島市農業協同組合に勤務しています。後2年ぐらいで定年をむかえます。システム開発に約30年近くかかわって来ました。

菅沼 和明 情報処理科 第23期生
東京都

広島転勤3年を経て、平成25年3月に古巣東京に戻ってまいりました。OB・OGの皆様、今後ともよろしくお願ひ致します。(職種も人材派遣から総務企画となりました)

河野 雅夫 情報技術科 第16期生
京セラドキュメントソリューションズ(株) 三重県

京セラドキュメントソリューションズ(株)三重玉城工場 生産技術部にて治具ソフトを作成しています。

山内 勝弥 メカトロニクス科 第4期生
秋田県

ホームページ(fslord.com)を開設しプログラムの配布をしています。鉄骨建築用のプログラムを開発したのですが、プログラム自体はあまり売れずもっぱら自社で図面作成をしています。同級生と会いたいな。



朝烏 一博 テレビ専門部 第3期生
北海道

当校卒業後、日本のトップクラスの光学録音スタジオセンターに就職。その後、札幌の某テレビ局に入社。最高レベルの人脈にかかわり、とても有意義な素晴らしい人生を全うし、現在にいたります。六郷の寮生活が忘れられない。なにはともあれ感謝するばかり。良かった青春の蒲田生活。なんといい時代だったことか。

木村 典治 放送制作芸術科 第7期生
青森県

秋田より転勤して、青森県黒石市に住んで3年半が過ぎました。青森県支部総会の連絡いただきましたが仕事の都合出席できません。青森県支部の盛会をお祈り致します。

斉藤 信義 ソフトウェア科 第10期生
青森県

昭和48年に卒業してから60才の今まで工学院で学んだ電算の仕事が続けてくることができました。最近の通信関係にはなかなか追いついて行くことができませんが、もう少し続けられそうです。新校舎を見に行きたいなあ。

石沢 雅寛 サービス技術科 第11期生
大分県

64歳、キャンノン関連企業で34年、スタンドマン6年、現在も頑張っています。皆様の健康と学校の発展を心からお祈りします。

森崎 俊彦 電子工学部 電子工学科 第31期生
大分県

あと約半年で定年を迎え、38年勤めたガチガチの組織を卒業し、個人創業に向け準備中です。まだ住宅ローンも4年程残っており65才位までは気を抜く事なく働かなければなりません。2人の子供も29才、27才となり順調に働いています。孫も1.5才になりいや〜かわいいもんです。この度の「会員の集い」において事務局のご配慮感謝いたします。ありがとうございました。

矢野 光昭 電子工学科 第28期生
(有)桜通信工業 大分県

(有)桜通信工業で通信工事、電気工事をまだやっております。

高橋 政夫 放送技術部 第14期生
大阪府

大阪の専門学校の職員として仕事をしています。まもなく70才。そろそろ現役引退かな?と思っています。

高内 清司 電子工学科 第37期生
大阪府

大阪で電子機器の開発をやってます。休日はサイクリングです。

大石 直実(旧姓：伊藤) 電子計算機部 第8期生
長野県

最近新しいパソコンにかえました。SET UPに来てくれた方とカードリーダーの頃のコンピューターの初期の話で盛り上がりました。IT機器の進化はすごいです。パソコン操作もわからない事が多いです。

杉田 親 環境工学科 第6期生
長野県

皆様、突然ですが蒲田校の校歌を覚えていますか。私は趣味でハーモニカを吹きます。お恥ずかしいのですが校歌を演奏してみました。サイト(<http://www.sugita-lab.org/music/>)で懐かしいメロディーを聞くことができます。



北原 健二 テレビ専門部 第11期生
鹿児島県

2014年1月12日で鹿児島の桜島が大正3年大噴火から100年を迎えます。最近その前夜祭の様に毎日元気良く噴火し多量の火山灰を吹き上げています。毎日の生活も大変ですが、それでも松島は我が鹿児島のシンボルです。

迫田 しのぶ(旧姓：和田) 立体製図科 第9期生
鹿児島県

今年度4月より次女が蒲田校にお世話になっております。(マンガ・アニメーション科)寮生活、学園生活、おおいに楽しんでおります。

福永 善治 サービス技術科 第26期生
鹿児島県

校友会にはなかなか参加できず申し訳なく思っております。卒業して34年も経っています。当時のクラスメートは元気ですか?今井さん、澤井さん、篠田さん…。たくさんの仲間と勉強したこと懐かしく思い出されます。いつ日かクラス会などでできたら良いですね。澤井さん、田舎にハガキが届いていたのに知らなくてごめんなさい。委員長、いつかクラス会を開いてください。皆さんお元気で!!

鳥居 利彦 情報技術科 第17期生
岐阜県

名古屋工学院 機械工学科 講師等もやっております。

岡山 胤見(旧姓：千葉) 応用サービス技術科 第18期生
宮城県

30数年ぶりに日本工学院に行ってみました。昔のおもかげ全然なし。工学院通りはなつかしかったです。

米本 正広 放送制作芸術科 第5期生
宮城県

いつもありがとうございます!仙台市の生涯学習の現場で新しいシステムを開発中です!

右田 祥二 公害工学科 第9期生
中外テクノス(株) 山口県

中外テクノス(株)山口支店で責任者を務めて、1年半毎月の売上、受注の心配で大変な毎日を過ごしております。環境アセス、土壌調査、耐震診断、微量分析等有りましたら宜しくお願ひ致します。

木村 重夫 電子工学科 第34期生
新潟県

定年を迎える歳と成り、工学院での勉強が懐かしく感じています。真空管技術を学んだ40年前、その当時はSFアニメの世界にしか無い様な機械が登場し、この間電気関連の仕事をして来た者としては驚きの連続です。退職後は電気技術の歴史を知る新旧技術の橋渡しが出来ればと考えます。

鹿島 一彦 情報技術科 第19期生
マイクロオートメーション(株) 新潟県

マイクロオートメーション株式会社を立ち上げて5期目に突入しました。主にFA関連の製造設備のソフトウェア設計を行っております。日本工学院で学んだ事が今の自分の礎となっています。同級生とも今でも年賀状のやりとりは行っているのですが、最近は直接会う事が出来ない事が残念です。

腰越 裕次 家電電子技術科 第41期生
(株)上越観光開発 新潟県

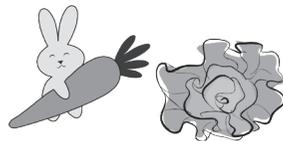
みなさんお元気ですか。学校での勉強や生活はホントに楽しかったです。今は学校で学んだ事を生かして電気主任技術者を修得し、ホテル、スキー場の電気の安全管理をしています。ぜひ、ホテル・スキー場に遊びに来て下さい。

阿部 信義 テレビ技術専門部 第1期生
新潟県

S38年3月卒の放送技術部と4名で適時集まって昔話に話を咲かせています。当時は「つかだ寮」に住んでいましたので蒲田周辺が懐かしいです。

渡辺 秀彦 公害工学科 第4期生
新潟県

30年以上「かまた寮」の仲間数人と地元の特産物を贈りあっています。



若林 奈穂子(旧姓：今井) 映像システム科 第44期生
新潟県

映像システム科を卒業後、夢だった電気工事の会社に就職し、視聴覚設備や電話工事の現場で仕事しましたが、現在では実家の「乾物屋」をしています。便利でおいしい「乾物」のよさを知ってもらおうと活動しております。

ブログ<http://blog.goo.ne.jp/naonao-sumisumi>

鈴木 宏信 **電気工学科 第1期生**
茨城県

H25.4.5日で満60才になりました。孫も高校一年生です。仕事も現在は、太陽光発電設備の工事が多く、大変忙毎日です。毎日女房とワインを飲みすぎています。



秋田 秀雄 **サービス技術科 第30期生**
茨城県

自分でもビックリなのですが、今年の4月から長男が東京工科大学(姉妹校)に入学しました。自分もこんな年になったんですね。長男はどんな道を進んでいくんだろうか？

根本 恭志 **電気工学科 第20期生**
株あいほら 茨城県

卒業後から株あいほらに入社して20年が経ちます。今、茨城県鹿島新日鉄住金株の構内で仕事をしています。現在の状況は、わが社新入社員はすぐに会社をやめてしまいます。他社を見ても、一生この会社でやっていこうと思う気持ちがない様に見えます。今後の卒業生たちは、ぜひ一生やっていくという気持ちで会社選びをして下さい。

野口 昌弘 **公害公害科 第6期生**
茨城県

30数年前卒業後、本校求人企業に就職し15年勤務後、独立し細々ながら20年会社経営しております。在学中は色々お世話になり中山先生は元気でお過ごしでしょうか？

緑川 哲夫 **電子工学部 第28期生**
埼玉県

勤続41年、現在も現役で働いています。機器製造メーカー技術職25年、その後16年目の営業職。現在は顧客とのコミュニケーションを大切にしています。

都築 康弘 **音響工学科 第10期生**
株渋谷ステージセンター 神奈川県

早いもので卒業から20年。東急Bunkamuraオーチャードホールで舞台管理、舞台機構操作の仕事をしています。



森脇 修 **電気工学科 第17期生**
山口県

電気工学科17期卒業の皆さんお元気でしょうか？1年次は城南寮、2年次は城南寮が女子寮に変更されたことから蒲田寮でお世話になりました。狭いベッドで4人部屋、厳しい環境の中、信頼できる先輩、同期の仲間達と過ごした有意義な2年間を今でも思い出します。卒業して33年、現在は道路の維持管理の仕事していますが、道路の施設照明等の維持管理業務もあり、工学院で学んだ事が仕事に役立っています。

伊波 寛隆 **サービス技術科 第25期生**
沖縄県

自営業(電気工事)しています。教室から富士山見えたのはとってもよかったです。今も見えますか？



数藤 和義 **レーザー工学科 第4期生**
神奈川県

相も変わらずレーザー装置の開発設計をやっております。この年になってもまだ世の中私の技術を必要としているようです。レーザーの基礎を日本工学院にて学ばせていただいたことは一生の思い出となっておりますし、自分にとって幸せであった、母校が発展しているのをみて懐かしくおもっております。ただ技術の後継者がいないのが残念です。若い人たちに伝授しようと思っても基礎がないので理解されず困ります。

樽澤 潤 **テレビ放送技術科 第2期生**
青森県

昭和53年3月、芸術学部放送制作技術学科(当時、そう呼ばれていたと記憶しております。)あれから36年、早いものです。その長きあいだ、最終的には、お陰様で市町村文化施設の舞台操作技術管理の委託業者として、会社も持つこともできました。いまはすでに引退です。青森県という今の時代でも遠い地方に住んでおりますが、クリエイティブなことに関しては一生現役と思っております。当時は蒲田の西六郷にあった蒲田寮に在学2年の間、住まわせていただきました。ありがとうございました。

諸越 圭 **情報処理科 第48期生**
千葉県

蒲田校を卒業して早十年余。地元で働き、同級生とは会わなくなっても、楽しかった日々は今も鮮明に覚えています。結婚して子供も出来た事で、思い出の詰まった母校に足を運ぶ事も儘ならなくなり、懐かしさと共に寂しさもあります。人生で幾つあるか判りませんが、偶然を頼りに再会出来る事を切に願い、蒲田校のより一層の発展を願っております。

西川 雄一 **情報処理科 第33期生**
株アイ・エス・ビー 神奈川県

かまた49号で会社名が間違えて掲載されていましたが、正しくは「株式会社アイ・エス・ビー」(ISB)です。先日、長女が誕生し、賑やかに過ごしています。



山田 麻由 **パソコン・ネットワーク科 第2期生**
東京都

ご無沙汰しております。学科学部は違いますが同職場に後輩がいて何とか平穩にやっています。

丸田 英雄 **情報処理科 第26期生**
長野県

工学院を卒業して早30年。今でもIT関連で仕事ができるのも工学院情報処理科で楽しく勉強できたおかげ。工学院の友人達も最高の仲間です。

高橋 誉志男 **電気工学科 第12期生**
宮城県

東北大震災の時は校友会の皆様にも多大な御支援をいただきまして、ありがとうございました。家族9人(孫2人)元気で暮しております。

織田てる子(旧姓：菅井) **立休製図科 第10期生**
神奈川県

11月3日に、かまた祭に行きました。息子が、日本工学院の授業内容に興味を持ったので、それじゃあ、かまた祭にでも行ってみるかということになり、私にとっては30余年振りの母校来訪です。懐かしさというより…立派な校舎が建ち並び、圧巻の一言でした。すっかり様変わりして、…残念ながら…懐かしさはありませんでした。でも、近代的な校舎、充実した設備…どどん立派になっていく母校は、卒業生の私にとって誇りです。ますますの発展をお祈りいたします。

渡辺 一雄 **放送制作芸術科 第5期生**
東京都

片柳放送センターの建設。学校の設備としては全く前例のない発想と投資であると思います。これからも一歩リードした教育方針と実行力について常に最先端であり続けて頂きたい。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

校友会会員の次の方々の訃報が届きました。

郷治 正雄さん 昭和40年 放送技術部 12期卒業 平成25年4月30日没	本田 毅さん 昭和59年 電子工学科 45期卒業
渡辺 良一さん 昭和54年 テレビ放送技術科 29期卒業	宮本 健希さん 昭和51年 電気工学科 10期卒業
田島 みよ子さん 昭和53年 放送制作芸術科 2期卒業 平成24年9月4日没	森 章さん 昭和54年 電気工学科 16期卒業
小清水 貴志さん 昭和57年 放送制作芸術科 6期卒業 平成24年6月6日没	山下 高志さん 昭和57年 電気工学科 19期卒業 平成21年4月10日没
増田 聖明さん 昭和61年 放送制作芸術科 10期卒業 平成24年11月8日没	北沢 幹夫さん 昭和55年 電気工学科 7期卒業 平成25年9月4日没
風間 義隆さん 平成7年 音響工学科 13期卒業 平成24年1月19日没	伊東 英男さん 昭和52年 公害工学科 4期卒業 平成24年1月29日没
榊原 正二さん 昭和58年 音響芸術科 1期卒業 平成25年9月4日没	櫻村 政之さん 昭和54年 公害工学科 6期卒業 平成25年4月26日没
堀川 京子さん 平成5年 音響芸術科 11期卒業 平成25年1月5日没	室田 幸博さん 昭和51年 情報処理科 16期卒業 平成21年5月20日没
服部 俊介さん 昭和48年 ソフトウェア科 10期卒業 平成17年没	恩田 稔さん 昭和51年 情報処理科 16期卒業 平成24年10月8日没
神部 健二さん 昭和51年 サービス技術科 19期卒業 平成24年10月21日没	佐々木 俊司さん 昭和55年 情報処理科 23期卒業 平成23年4月17日
黒沢 修一さん 昭和51年 サービス技術科 19期卒業 平成25年9月24日没	水越 忍さん 昭和58年 情報処理科 26期卒業 平成25年2月25日没
大森 正伸さん 昭和59年 情報技術科 16期卒業 平成25日5月23日没	島田 直さん 昭和60年 情報処理科 28期卒業 平成22年8月4日没
秋田 建さん 昭和61年 情報技術科 18期卒業	佐藤 吉司さん 昭和60年 情報処理科 28期卒業 平成25年3月6日没
佐瀬 誠さん 平成3年 情報技術科 23期卒業 平成25年6月7日没	田中 雅さん 平成5年 情報処理科 36期卒業 平成25年6月30日没
加知 仁志さん 昭和47年 電子工学科 27期卒業 平成14年9月1日没	鈴木 大輔さん 平成16年 情報処理科3年制 13期卒業 平成10年9月1日没
鈴木 健さん 昭和50年 電子工学科 32期卒業 平成25年5月12日没	関原 敏代さん 昭和59年 情報処理科1年制 28期卒業 平成25年9月12日没
大沢 和美さん 昭和51年 電子工学科 34期卒業 平成19年6月没	山田 誠一さん 昭和61年 情報処理科1年制 30期卒業 平成24年7月19日没
黒田 裕二さん 昭和51年 電子工学科 34期卒業 平成24年12月3日没	小林 弘治さん 平成23年 建築設計科 14期卒業 平成25年1月10日没



KATAYANAGI INSTITUTE

学校法人片柳学園創立70周年記念奨学金について

本学園は、昭和22年の設立以来、70年近くに亘り「理想的教育は理想的環境にあり」との理念に基づき、社会の変革に即応し、常に将来を見越して教育環境、教育施設を整備するとともに、「実学教育」をモットーに健全で良職あるプロフェッショナルな人材の育成に励んで参りました。

21世紀以降、学術の進歩と急速な社会の変革に伴い、グローバル時代に即応出来る人材の求められる今日、学園を挙げて改革を進めて参りました。

年々高度化する社会の現状と将来の動向をふまえて、今後の教育の柱として「優れた教育設備の下」・「優れた教師により」・「優れた学生を教育する」という三本の柱を教育方針として、更に社会に貢献する人材の育成を目的とし、学ぶ意欲があり優秀な学生や経済的理由で就学が困難な学生に対し、返済不要の奨学金を給付します。

尚、奨学金の財源は、学園の施設使用料収入、自動販売機売上手数料等をもってこれに充てるものとします。

創設者
学園長・理事長 片柳 鴻

学校法人 片柳学園

日本工学院専門学校 校友会誌

ひまた No.50

平成26年8月31日発行

●お問い合わせ

〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22 TEL 03-3732-8183 FAX. 03-3732-1576
校友会ホームページ <http://www.kouyukai.net> メールアドレス koyukai@neec.ac.jp



日本工学院

片柳学園 創立70周年記念奨学金

日本工学院は、学校法人創立70周年記念として、社会に貢献する人材のさらなる育成を目的に、学ぶ意欲があり優秀な学生や、経済的理由で就学が困難な学生に対し、返済不要の奨学金(6タイプ)を給付します。
※対象：2015年度入学生

	プラン	対象者	給付額	定員 ^{※4}	審査	採用試験日 (申請受付期間)
新卒者 (または卒業後1年以内の方) 向け	成績優秀者 特待生	次のすべてを満たす方 ・高等学校の評定平均値4.0以上 ・出席皆勤(または同等) ・高等学校の先生の推薦	50万円 入学時25万円 2年進級時25万円	100名	・書類審査(作文) ・筆記試験(適性試験)	受験場所：入学希望校 10/18日 (2014/10/1~10) 就学支援奨学金を除く 留学生特待生
	課外活動 優秀者 特待生	次のすべてを満たす方 ・課外活動における優秀な成績(高等学校文化連盟や体育連盟所属のクラブ活動において所定の成績を修めた方、または本校主催のコンテスト等で優秀な成績を修めた方) ・高等学校の先生の推薦	30万円 入学時15万円 2年進級時15万円	100名	・面接試験	11/15日 (10/16~11/7) ※5
	資格 特待生	本校所定の資格を取得した方 実用英語技能検定 準2級以上、実用数学技能検定 準2級以上、TOEIC 400点以上、その他工業系資格、商業系資格 ほか ※2 (2015年3月までに取得した資格が対象)	10万円 入学時	100名	・書類審査(作文)	12/6日 (11/13~28) 1/24日 (12/17~1/16)
	就学支援 奨学金	日本学生支援機構奨学金予約採用者で、次のすべてを満たす方 ・高等学校の評定平均値3.5以上 ・出席良好 ・世帯年収400万円以下 ・高等学校の校長先生の推薦	自宅通学者 30万円 入学時15万円 1年次後期15万円 ※3 自宅外通学者 42万円 入学時21万円 1年次後期21万円 ※3	200名	・書類審査 ・面接試験	2/14日 (1/22~2/6) 3/7日 (2/12~27) 3/23日 (3/3~12)
既卒者 ^{※1} 向け	再進学 特待生 再チャレンジ応援 学び直し優遇制度	高等学校を卒業した方 ※1 本校以外の専門学校を卒業した方 短期大学を卒業した方 大学を卒業した方 社会人	30万円 入学時15万円/2年進級時15万円 10万円 入学時	100名	・書類審査(作文) ・筆記試験(適性試験) ・面接試験	受験場所：本校以外 ※6 11/29日 30日 (11/7~14)
留学生 向け	留学生 特待生	●日本語学校に在籍し出席率90%以上で、かつ次の①~④のいずれかに該当する方 ●日本語学校在籍者以外で、次の①~③のいずれかに該当する方 ①日本語能力試験1級(N1)合格者 ②日本留学試験260点以上取得者 ③国内あるいは外国の大学を卒業した方(学士取得者) ④上記と同等の能力を有すると、日本語学校の校長先生が認める方	36万円 入学時18万円 1年次後期18万円 ※3	100名	・書類審査 ・筆記試験(日本語能力作文) ・面接試験	資格特待生は書類審査のみのため、試験日に受験する必要はありません。 2/7日 8日 (1/16~23)

※1 高等学校卒業者、文部科学省高等学校卒業程度認定試験合格者、高等専門学校3年以上修了者、本校校長が認める学校を卒業した方。
 ※2 その他の資格は「片柳学園創立70周年記念奨学金要項」をご覧ください。
 ※3 就学支援奨学金および留学生特待生に採用された方は、学費の分納(月払い)が選択できます。
 ※4 定員に達し次第、締め切ります。
 ※5 2015年3月高等学校卒業見込みの方で、一般入学を希望する方の受付は11/4からです。
 ※6 開催地は「片柳学園創立70周年記念奨学金要項」をご覧ください。

注意 ●本校を専願し、学業・人物ともに優秀な方を対象とします。 ●休学または退学する場合は、給付額を返還していただきます。
 事項 ●奨学金給付審査料は無料です。ただし、推薦入学、一般入学、AO入学の選考料は、 ●本校の他の特待生制度および片柳学園入学免除制度、再入学優遇制度との併用(併給)はできません。ただし、片柳学園奨学金制度との併給は可能です。
 事項 ●採用試験結果により採用・不採用を決定します。 ●給付方法は、学費納入金からの減額です。 ●申請方法・その他の詳細は、「片柳学園創立70周年記念奨学金要項」でご確認ください。

日本工学院専門学校 〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22
 教育・学生支援部 奨学金係
 TEL.03-3732-1483

クリエイターズカレッジ デザインカレッジ ミュージックカレッジ ITカレッジ テクノロジーカレッジ 医療カレッジ

●URL <http://www.neec.ac.jp/> ●Eメール info@neec.ac.jp

